FUJIFILM

FinePix A400/A500用

防水ケース

for FinePix A400/A500

Waterproof Case

WP-FXA500

日本語

ENGLISH

FRANÇAIS

DEUTSCH

ESPAÑOL

使用説明書
防水ケース WP-FXA500　保証書付

OWNER'S MANUAL
WP-FXA500 Waterproof Case

MODE D'EMPLOI
Le caisson étanche WP-FXA500

BEDIENUNGSANLEITUNG
WP-FXA500 Unterwassergehäuse

MANUAL DEL USUARIO
WP-FXA500 La caja estanca

BL00544-100(1)

安全上のご注意

このたびは、弊社製品をお買上げいただきありがとうございます。ご使用の前に必ず本「使用説明書」、特にこの「安全上のご注意」と、デジタルカメラ本体の「使用説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

■表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。

⚠	このような絵表示は、気をつけていただきたい「警告」や「注意」の内容です。
⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警告

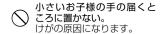
分解禁止

分解や改造は絶対にしない。
水もれの原因になります。

不安定な場所に置かない。
バランスがくずれて倒れたり落下したりして、けがの原因になります。

指定外の電池を使用しない。
火災の原因になります。

指定外の方法で電池を使用しない。
電池は極性（⊕⊖）表示どおりに合わせて入れてください。

電池を分解、加工、加熱しない。
電池を落としたり、衝撃を加えない。
電池を金属製品と一緒に保管しない。
アルカリ乾電池は充電しない。
ニッケル水素電池を指定充電器以外で充電しない。
電池の破裂・液もれにより、火災・けがの原因になります。

xD-ピクチャーカードは、乳幼児に触れさせない。
xD-ピクチャーカードは、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

小さいお子様の手の届くところに置かない。
けがの原因になります。

カメラをセットしたまま太陽を見ない。
失明の恐れがあります。

ストラップを持ったまま本製品を振り回さない。
自分や人に当って、けがをする原因になります。

炎天下または直射日光の当たるところに放置しない。
内部の気圧が上昇し、ふたが跳ね上がる可能性がありけがの原因になります。

⚠ 注意

本製品を落としたり、岩など固いものにぶつけたりしない。
ひび割れが発生し、水もれの原因になることがあります。

お手入れの際や長時間使用しないときは、電池を外す。
液もれや火災の原因になることがあります。

フラッシュを人の目に近づけて発光させない。
一時的に視力に影響することがあります。特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。

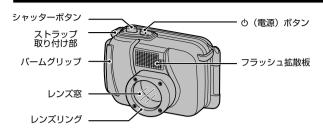
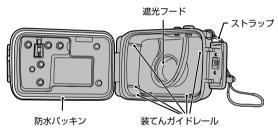
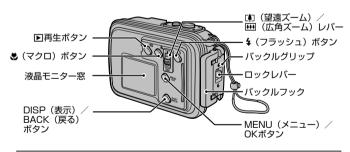
砂、ほこり、ゴミの多いところで開閉しない。
防水パッキンに付着すると、水もれの原因になることがあります。

異常に高温になるところ、異常に温度が低くなるところに本製品を放置しない。
故障の原因になることがあります。

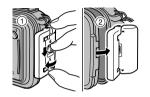
水もれがあった場合は、カメラより電池を速やかに取り外す。
水素ガスによる燃焼・爆発により、火災・けがの原因になることがあります。

水深3mを超える水中では使用しない。
故障の原因になることがあります。

目次

はじめに

■ご使用前に必ずお読みください

- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。
- この防水ケースは、水深3m以内の水中で使用するよう設計されています。取り扱いには十分にご注意ください。
- 防水ケースのご使用前の取り扱い方法と事前のチェック、メンテナンス、ご使用後の保管方法はこの使用説明書の内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。
- 万一、防水ケース取扱上の不注意（防水パッキンに異物が付着していた場合など）により水もれ事故を起こした場合、内部機材の損傷、および付随的損害については補償いたしかねます。
- 使用時の事故（人身・物損）の補償はいたしかねます。

付属品

- 使用説明書（本書1部）

各部の名前

- 操作部は、カメラの各操作に対応しています。カメラの使用説明書で、機能をご確認ください。
- ご購入時は液晶モニター窓に保護シートが付いています。ご使用前に、保護シートをはがしてください。

防水機能を事前にチェックする

カメラに装着する前に浸水テストをする

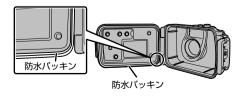
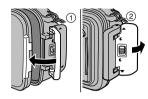
カメラに装着する前に水もれがないか必ずご確認ください。

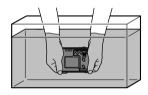
日本語

1 防水ケース全体を見回して、ひび割れ、変形がないか確認します。

2 防水ケースを開けます。

① ロックレバーを下側（◖）にスライドさせながら、バックルグリップの上下（▲▼の位置）をつまんで起こします。

② バックルフックを外して防水ケースを開けます。

3 内部を確認します。

- 本体のひび割れ（特に防水パッキン付近）
- 防水パッキンがきちんと装着されているか
- 防水パッキンの傷、ひび割れ、変形、変質など
- 防水パッキンに砂、ゴミが付着していないか

防水パッキンに異物が付着している場合は、繊維くずの出ないやわらかい布などでふき取ります。

ⓘ ティッシュペーパーでふき取る際は、細かな繊維くずが残ることがあるのでご注意ください。

4 防水ケースを閉じます。

バックルフックを引っ掛けてから閉じます。

(!) 防水ケースを閉めるときは、ストラップがバックルにはさまらないように注意してください。水もれの原因になります。

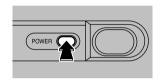
5 水槽やお風呂などに浸して、水もれしていないかを確認します。確認方法については、10ページをご参照ください。

水もれ事故を防ぐために

防水パッキンに異物が付着している場合は浸水の原因になります。異物が取り除けないときは17ページを参照して、新しい防水パッキンと交換してください。

毛

繊維

砂

カメラに防水ケースを装着する

装着前に次のことをご確認ください。

- 水中撮影中に電池切れにならないよう、電池残量を確認してください。残量が少ない場合は、アルカリ乾電池は新品と、ニッケル水素電池はフル充電したものと交換してください。
- **xD-ピクチャーカード**の撮影可能枚数が十分にあることをご確認ください。
- カメラからストラップを外してください。ストラップをカメラに付けたまま防水ケースを装着すると水もれの原因になります。

日本語

1 カメラの電源を切ります。

2 防水ケースを開けて（→7ページ）、カメラをセットします。

カメラがしっかり止まるまで防水ケース内に滑り込ませるようにセットします。

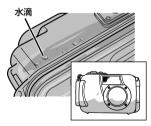
3 カメラと防水ケースが正しくセットされているか確認します。

- 防水パッキン、防水パッキンに合わさる防水ケース本体側部にゴミや髪の毛などの異物が付いていないか
- カメラが防水ケースに対して曲がってセットされていないか

4 問題がなければ、防水ケースを閉めます（→8ページ）。

→ ⏻（電源）ボタンなど各操作部が作動するか確認してください。

最終テストをする

カメラに防水ケースを装着した状態で浸水テストを行います。水もれがないか確認しますので、必ず行ってください。
真水の入った水槽やお風呂などに浸したまま水もれがないか確認します。ただちに水中から引き上げられるよう十分に注意して確認してください。

1 30秒程度水に浸します。

- 水に入れたときに防水ケースの合わせ目から連続して気泡が出ていませんか？
- 実際に水中でボタン類を操作してみましょう。
- 写真も撮ってみましょう。

2 防水ケースをゆっくりと水から引き上げよく確認します。

- 防水ケース内の合わせ目付近に、水滴が付いていませんか?
- 防水ケース内に水がたまっていませんか?

もし水もれが確認されたら…

① ただちに防水ケースを水中から引き上げ、水分をふき取ってください。
② 防水ケースからカメラを取り出してください。カメラ本体に水滴が付着している場合はただちにふき取ってください。
③ 防水ケース本体のひび割れ、防水パッキンに異物の付着、傷、ひび割れ、変形、変質がないか確認します。
④ 確認後、異常が見られない場合は7ページの手順からやり直してください。

(!) 防水ケースに異常があった場合はただちに使用を中止し、お近くの弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

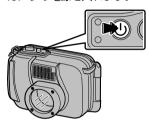
(!) カメラ本体に水が入った場合はただちに使用を中止し、お近くの弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。異常があるまま使用すると発火や感電の原因になりますので絶対に使用しないでください。

防水パッキンに異物が付着している場合は浸水の原因になります。16ページを参照して異物を取り除いてください。

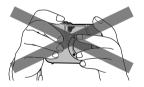
毛

繊維

砂

日本語

撮影する

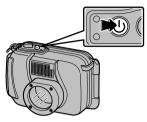
- 水深3mまで使用可能です。
- 操作部は、カメラの各操作に対応しています。カメラの操作方法や機能についてはカメラ本体の使用説明書を参照してください。

1 カメラの電源を入れます。

⏻（電源）ボタンを押します。

(!) 水中で撮影する前に地上で試し撮りをしてください。

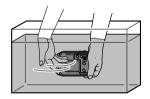
2 両手で防水ケースをしっかり支えて構えます。

(!) レンズ窓、フラッシュ発光部に指やストラップがかからないようにしてください。ピントが合わなかったり、適正な明るさで撮影できないことがあります。

3 撮影します。

① シャッターボタンを半押しして ピントを合わせます。

② 半押しのままさらにシャッターボタンを押し込むと撮影されます。

(!) 動画撮影は半押しできません。

日本語

撮影が終わったら（保管方法）

1 カメラの電源を切ります。

⏻（電源）ボタンを押して電源を切ります。

(!) 必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。

2 撮影終了後すぐに、バケツに真水を張り海水の塩抜きをします。

このとき手で水を送るようにして、細部の塩分を落とします。

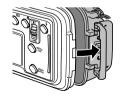
(!) 塩抜きを行わないと、サビや各部の動きが悪くなるなどの原因になります。

3 防水ケースに付いている水滴をていねいにふき取ります。

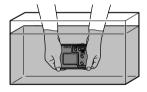
特に防水ケースの合わせ目の水滴は、ていねいにふき取ってください。

(!) 繊維くずの出ないやわらかい布などをご使用ください。

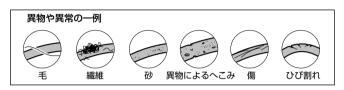
(!) シャッターボタンやバックルなど細かい部分の水滴もしっかりふき取ってください。

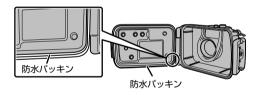
4 防水ケースを注意して開き、カメラを取り外します。

- 防水ケースを開ける際は防水ケース内部やカメラに水滴が付かないように手や髪の毛などが十分に乾いていることを確認してください。
- カメラを落とさないようレンズ部を下に向けて防水ケースを開けてください。
- ぬれた手でカメラや電池に触れないでください。
- 水しぶきや砂のかかるところで防水ケースの開閉はしないでください。

日本語

5 防水パッキンに水滴、異物がないことを確認して防水ケースを閉め、密封します。もう一度、真水でよく洗います。

水の中でボタン類をかるく操作し、塩分を取り除くようにしてください。その後、真水に1時間程度つけておくことをおすすめします。

- 十分に塩分を落とさずに保管すると、塩の結晶によりバックルなどが動かなくなります。また、サビの原因になります。

6 水滴をふき取ったあと、防水ケースを少し開けて、風通しのよい日陰で乾燥させてください。乾燥後は、直射日光の当たらないところに保管してください。

- 温風機などの熱風や直射日光に当てて乾燥させないでください。

メンテナンス

使用後のメンテナンス

防水ケースを使用したあとに必ず行ってください。次回使用するときのために、防水パッキンに“異物によるへこみや傷、ひび割れ”などの異常がないことを確認します。

繊維くずの出ないやわらかい布などで、防水パッキンに付着した異物をふき取ります。

ティッシュペーパーでふき取る際は、細かな繊維くずが残ることがあるのでご注意ください。

異物が取れないときは…

ふいても異物が取れないときは、次のようにしてください。
① 防水パッキンを取り外します。
② 水でやさしく異物を洗い流します。
③ 繊維くずの出ない柔らかい布などで、水をふきとってください。
④ 乾いたら、防水パッキンを防水ケースに取り付けます。

(!) 防水パッキンの突起と、防水ケースのくぼみを合わせるようにして取り付けてください。

(!) 上から防水パッキンをまんべんなく押さえて、しっかり取り付けてください。

(!) 防水パッキンを取り外すときは、傷などつけないよう指で外してください。先のとがったものや金属などお使いにならないでください。

(!) 防水パッキンを強く引っ張らないでください。伸びてしまい、防水ケースが閉まりにくくなり、水もれの原因になります。

(!) 防水パッキンを取り付けるときは、ねじれたり、高さが違わないよう注意して、正しく装着できているかご確認ください。

別売アクセサリーの紹介

■デジタルカメラFinePix A400/A500用防水ケースWP-FXA500の別売の消耗品をご紹介いたします。

※ 最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/ またはhttp://finepix.com/

• 防水パッキン（ORK-A500）
メンテナンス用の消耗品のキットです。

日本語

使用上のご注意

- 環境温度+40℃以上のところでは使用または保管しないでください。
- ＋40℃を超える温水の中では使用しないでください。浸水の原因になります。
- 山の上などの高所で防水ケースを閉じたときや、飛行機で防水ケースを持ち運ばれた場合、地上で開きにくくなることがあります。そのような場合は、先端のとがっていないプラスチックのカードなどを防水パッキンの接合部に差し込んでください。
- シンナー、ベンジン、アルコールなどの揮発性の薬品は表面をいため、高圧下でひび割れの原因になりますので使用しないでください。
- ぶつけたり強い衝撃を与えないでください。
- 防水ケースを水中に投げ込まないでください。
- 海辺などでの使用後は、防水ケースを完全に閉めた状態でバケツなどにためた水道水で洗い、砂や塩分を落としてから、乾いた柔らかい布で水分を十分にふき取ってください。
- 本製品は、防水ケースとして水中で使うことを想定しています。カメラを入れたままの放置、または保管はしないでください。特に電池は、液もれや火災の原因になることがあります。

■水もれ事故を防ぐために

本製品を使用中に水もれ事故が発生すると装着されたカメラが修理不能になります。以下の注意を守った上でご使用ください。

- 防水パッキンは使いかたによって差異がありますが、約1年を目安に新品と交換してください。
- 防水パッキンに異物が付着している場合は浸水の原因になりますので、ふき取ってください。ふき取るときは繊維くずが残らないようにしてください。異物が取れないときは水洗いしてください。
- 防水パッキンに傷やひびがあるとき、変色や変形が現れたときは新品と交換してください。
- 防水パッキン交換時には取り付け部をクリーニングし、砂やゴミ、頭髪など異物がないことを確認してください。
- 防水パッキンは正しくセットされていないと、浸水する場合があります。防水パッキンをセットする際は溝の形状に合わせ、ねじれたりしないように注意してセットしてください（→17ページ）。
- 夏期の直射日光の当たるところ、閉め切った自動車および暖房器具の近くなどに放置したり、長時間外力を加えたりしないでください。熱や力によって変形し、防水性能が損なわれ使用できなくなる場合があります。
- 防水パッキンとその接触面をぶつけたり異物（砂やゴミ、頭髪など）を挟み込んだりして傷を付けないようにしてください。
- 浸水テストと最終テストを実施した上でご使用ください。
- 水もれの兆候が起きたらできるだけ早く水中から出し、水もれ原因をよく調べて、適切な処置をとってください。

異物や異常の一例

毛

繊維

砂

異物によるへこみ

傷

ひび割れ

主な仕様

対象カメラ	フジフイルムデジタルカメラ　FinePix A400/A500
許容水深	水深3m以内
主要材質	本体　　：透明ポリカーボネート レンズ窓：強化ガラス
本体外形寸法	幅123mm×高さ78mm×奥行き63mm（突起部含む）
本体質量	約145g（カメラ、付属品含まず）

※ 仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店またはサービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪い時はまずチェックを

使い方の問題か、故障か迷うときは、FinePixサポートセンターへお問い合わせください。電話番号が24ページに記載されています。

■ 故障と思われるときは

当社サービスステーションに修理をご依頼ください。サービスステーションのリストが24ページに、主なサービスステーションの地図が22ページにあります。依頼方法は、次のページの中からお客様のご都合によりお選びください。なお、集配ルートの都合上、サービスステーションに直接ご依頼いただくと、お預かりの期間は短くなります。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

- 23ページにある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。
- 落下･衝撃､砂･泥かぶり､冠水･浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。

■ 修理部品について

- 本製品の補修用部品は、製造打ち切り後８年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客様の住所・氏名・電話番号等の個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にご提供いただいたお客様の個人情報を次のように取扱います。

1. お客様の個人情報は、お客様のお問い合わせに対する当社からの回答、修理サービスの提供およびその後のユーザーサポートの目的にのみ利用いたします。
2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩等の事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。
3. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせ等は、FinePixサポートセンター等のお問合せ先、あるいは修理依頼先サービスステーション宛にお願いいたします。

修理の依頼方法は、下記の中からお客様のご都合に合わせてお選びください。

● FinePixクイックリペアサービス

「お預かり」・「梱包」・「修理」・「お届け」をワンパックにした、お預かりからお届けまでが3日の宅配修理サービスです。

- 申し込みは、以下から選択してください。

【クイックリペアサービス申し込み先】

インターネット：
http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php
電話：　03-3436-2224
ファクス：03-3431-3470

申し込みに際し、20ページの「個人情報の取扱について」をご確認下さい。

- 当社指定の宅配業者が、ご指定の日時にお預かりに伺い、修理完了品をご自宅までお届けします。
- 保証期間内外を問わず、全国一律のサービス料金が必要です。また有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

● サービスステーションへの送付修理

- ご依頼の際「修理依頼票」を記載の上修理依頼品に添付してください。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

● FinePix特急30分修理（持込修理）

サービスステーションに直接お越しいただいたお客様を対象とした、30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービスです。

- サービスステーションは下記6箇所です。

東京
大阪　次ページの地図を参照下さい。
名古屋

札幌　当社ホームページ
仙台　http://fujifilm.jp/
福岡　をご覧ください。

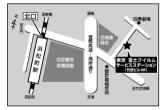
- 専任技術者が対応しますので、その場で修理を行うことができます。後日引き取りもできます。
- 特急修理のために特別なサービス料金は不要です。ただし有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。
- 修理料金は、お引取り時にサービスステーション窓口でお支払い下さい。

● お買上げ店への持込修理

- 修理料金及びその支払方法については、お持ちいただいたお店にご確認下さい。

アフターサービスについて

■ 修理に関する情報は

- 修理サービスQ&A
  http://www.fujifilm.co.jp/faq/after/index.html
  修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。
- 修理納期検索サービス
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/repair/certificate.jsp
  東京もしくは大阪のサービスステーションに修理依頼品を送付あるいは持込された場合、修理完了予定日を検索することができます。
- FinePix修理概算見積サービス
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/estimate/index.php
  当社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金を算出できます。

★東京：
富士フイルムサービスステーション

JR山手線浜松町駅北口下車　徒歩5分
TEL（03）3436-1315

★大阪：
富士フイルムサービスステーション

地下鉄御堂筋線本町駅1番出口下車　徒歩5分
TEL（06）6260-0915

★名古屋：
富士フイルムサービスステーション

地下鉄東山線伏見駅6番出口下車　徒歩5分
TEL（052）202-1851

【受付時間】
東京・大阪・名古屋：
　月～金　9：00～17：40
　土　　　10：00～17：00
　日・祝日・年末年始を除く

札幌・仙台・福岡：
　月～金　9：00～12：00
　　　　　13：00～17：40
　土・日・祝日・年末年始を除く

- 地図は、当社ホームページ
  http://fujifilm.jp/をご覧ください。

WP-FXA500 修理依頼票

※ 予め20ページの「個人情報の取扱について」をご確認ください。

※ 本紙は拡大コピーしてお使いください。

※ 下表の□は、該当する項目にチェック（✔）を入れてください。

日本語

フ リ ガ ナ		電 話 番 号	
お 名 前		ファクス番号	
ご 住 所	〒 ー		
ボディ番号（機番）保証書あるいは本体底面に記載してある8けたの番号です。修理お問い合わせ時にご連絡ください。		No.	
修理品への添付	□保証書		
□（ ）		□（ ）	
□（ ）		□（ ）	
故障内容（故障時の様子や発生頻度、症状など具体的にご記入ください）			
お 見 積 も り	□必要（修理金額 円以上見積もり） □不要		
お見積もり連絡方法	□電話 □ファクス		

● 本製品に関するお問い合わせは…

富士フイルムFinePixサポートセンター

0570-00-1060
市内通話料金で
ご利用いただけます

携帯電話・PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は
042-481-1673

月曜日～金曜日 午前9：00 ～午後5：40　土曜日 午前10：00 ～午後5：00
日・祝日・年末年始を除く

FAX　042-481-0162

受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）
※予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

● 本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/ または http://finepix.com/
弊社ホームページの自己解決に役立つ「Q＆A検索」もご利用ください。

● 修理の受付は…
富士フイルムサービスステーションではお客様の利便性向上のため、各種の修理サービスを用意しております。お気軽にご利用ください。

サービスステーション名および住所・電話番号
東京 〒105-0022　東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル 10F（03）3436-1315
大阪 〒541-0051　大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル 3F（06）6260-0915
名古屋 〒460-0008　名古屋市中区栄1-12-19（052）202-1851
札幌 〒060-0002　札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館 3F（011）222-3973
仙台 〒980-0811　仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル 1F（022）265-2149
福岡 〒812-0018　福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルム 福岡ビル 3F（092）281-4863

■ **お急ぎの場合は、全国どこからでも**
【FinePix クイックリペアサービス】：
お預かりからお届け迄が3日の宅配修理サービス

■ **お近くにサービスステーションがあれば**
【FinePix 特急修理30分】：
30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービス
※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

● 本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…
お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日 午前9：30 ～午後5：00）：
TEL 03-3406-2982

Safety Notes

Thank you for purchasing this product.
Before using the product, make sure to read this “Owner’s Manual,” particularly these “Safety Notes,” as well as the “Owner’s Manual” for the Digital Camera. After reading them, keep them available so that you can check them easily at any time.

■ The icons shown below are used in this document to indicate the severity of the injury or damage that can result if the information indicated by the icon is ignored or the product is used incorrectly.

Icon	Meaning
	This icon indicates that serious injury can result if the information is ignored.
	This icon indicates that personal injury or material damage can result if the information is ignored.

■ The icons shown below are used to indicate the nature of the information which is to be observed.

Icon	Meaning
	Triangular icons notify the user of information requiring attention (“Important”).
	Circular icons with a diagonal bar tell you that the action indicated is prohibited (“Prohibited”).
	Filled circles with an exclamation mark notify the user of an action that must be performed (“Required”).

⚠ WARNING

Never attempt to modify or disassemble the product.
This may cause water to leak in.

Do not place the product on an unstable surface.
This can cause the product to fall or tip over and cause damage or injury.

Use only the batteries specified for use with the camera.
The use of other power sources can cause fire.

Do not use the batteries except as specified.
Load the batteries with the ⊕ and ⊖ marks.

Do not heat, modify or attempt to disassemble the batteries.
Do not drop or subject the batteries to any impact.
Do not store the batteries with metallic products.
Do not attempt to recharge alkaline batteries.
Do not use chargers other than the specified model to charge the Ni-MH rechargeable batteries.
Ignoring any of the above instructions can cause the battery to explode or leak and cause fire or injury as a result.

Keep xD-Picture Cards out of the reach of small children.
Because **xD-Picture Card**s are small, they can be accidentally swallowed. Be sure to store **xD-Picture Card**s out of the reach of small children. If a child swallows an **xD-Picture Card**, seek medical advice immediately.

Keep out of the reach of small children.
This product could cause injury in the hands of a child.

Do not use the camera to look at the sun.
It may damage your eyesight.

Take care when using the waterproof case with the strap attached.
This may cause the case to swing unexpectedly, causing damage or injury.

Do not leave the underwater camera housing in direct sunlight or in places subject to extreme temperatures.
If pressure inside the case rises due to heat, the lid may pop open violently and cause damage or injury.

CAUTION

Do not drop the product or strike it against hard objects.
It may crack the product and cause water to leak in.

Remove the batteries when you are cleaning the camera or you do not plan to use the camera for an extended period.
Failure to do this can cause the battery to leak or cause fire.

Do not use the flash too close to a person's eyes.
It may temporarily affect the eyesight. Take particular care when photographing infants and young children.

Do not open or close this product in sandy or dusty places.
If a sand grain or dust is caught in the waterproof sealing, it may cause water to leak in.

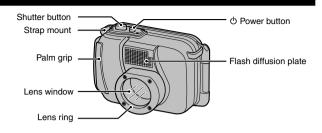
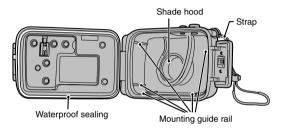
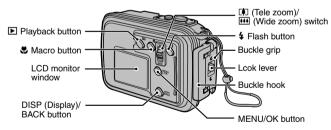
Do not leave the product in places subject to extremely high or low temperatures.
It may cause it to break down.

If the camera gets wet, immediately remove the batteries from the camera.
It may cause fire or injury due to ignition or explosion of hydrogen gas.

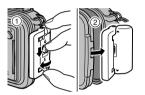
Do not use the product at depths exceeding 3 m (9.8 ft.) below the surface.
It may cause it to break.

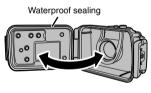
Contents

Preface

- Fuji Photo Film Co., Ltd. cannot accept liability for any incidental losses (such as photographic costs or loss of income from photography) incurred as a result of faults with this product.

■ Be sure to read this before use

- This waterproof case is designed for use underwater to a depth of 3 m (9.8 ft.). Handle the case carefully.
- Please follow the guidelines in this manual regarding how to prepare the waterproof case for use, how to make a preliminary check, maintaining the case and putting it away it after use. Use the product only as described in this manual.
- Fuji Photo Film Co., Ltd. will not compensate for any damage to the digital camera or any incidental losses caused by improper use of the waterproof case (such as foreign particle attached to the waterproof sealing).
- Fuji Photo Film Co., Ltd. will not compensate for any personal injury or death or property damage caused during use.

Accessories Included

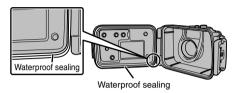
- **Owner's manual (this manual)**

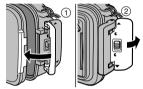
Part Names

- The operation unit functions correspond to individual operations of the camera. Confirm the functions of the unit in the “Owner’s Manual” for the Digital Camera.
- A protection sheet is attached to the LCD monitor window when you purchase the unit. Make sure to peel off the sheet before using it.

Preliminary check of the case

Make a preliminary submersion test on the waterproof case before positioning the digital camera

Before installing the digital camera in the case, make sure that there is no water leakage.

1 Check the outside of the waterproof case to make sure that there are no cracks or faults with it.

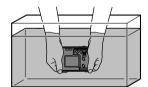
2 Open the waterproof case.

① While sliding the lock lever down (◖), hold the top and bottom (the position of ▲▼ marks) of the buckle grip and raise it up.
② Unlock the buckle hook to open the waterproof case.

3 Check the inside of the waterproof case for the following:

- Cracks (especially around the waterproof sealing)
- Correct seating of the waterproof sealing
- That the waterproof sealing has no scratches or cracks, or that it is oddly shaped, etc.
- Sand or foreign particles stuck to the waterproof sealing

ENGLISH

Preliminary check of the case

If any kind of foreign particles attached to the waterproof sealing, wipe it off using soft, lint-free cloth or something similar.

(!) If using tissue paper to wipe it off with, be careful, since fine lint may be left behind.

4 Close the waterproof case.

Close the waterproof case after clampling the buckle hook securely.

(!) When closing the waterproof case, take care that the buckle does not catch the hand strap.
It may cause a water leak.

5 Dip the empty waterproof case into a water tank or a bathtub and check for water leaks. For how to check it, see p.10.

To prevent water leaks

Any foreign particles attached to the waterproof sealing may cause a water leak. Remove the foreign particles. If you cannot remove them, replace the waterproof sealing with a new one (p.17).

Hair

Lint

Sand

Positioning the Digital Camera in the Waterproof Case

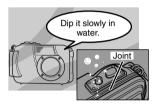
Before installation, check the following:
- To avoid loosing power while shooting underwater, check the remaining battery power. If the remaining battery power is not enough, replace the alkaline batteries with new ones, or the Ni-MH rechargeable batteries with fully charged ones.
- Check how many new images can be stored on the **xD-Picture Card**.
- Remove the hand strap from the digital camera. Using the camera in the waterproof case with its strap may cause the case to leak.

ENGLISH

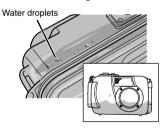
1 Turn the camera off.

2 Open the waterproof case (p.7) and set the camera in it.

Slip the camera into the waterproof case until it stops securely.

3 Confirm the following before closing the waterproof case.

- There is no dust, hair, or other foreign particle on the waterproof sealing, or on the edge face of the waterproof case that engages with the waterproof sealing.
- The camera is correctly seated and aligned in the waterproof case.

4 When all is well, close the waterproof case (p.8).

→ Check that the camera's ⏻ Power button and any parts can be correctly operated using the controls on the housing.

Conducting a final test

Carry out a final submersion test on the waterproof case after mounting the digital camera. To check for water leaks, watch for any water leaking in while immersing it in a water tank or a bathtub filled with water. Check it in a way that lets you take it out of water immediately (to save the camera inside) if you need to.

1 Immerse it in water for 30 seconds.

- If you see a continuous flow of air bubbles from the joint of the waterproof case while in the water, this indicates a leak.
- When all is well, operate the buttons and take some test shots while it is under water.

2 After slowly lifting the waterproof case out of water, closely check for the following:

- Water droplets near the joint of the waterproof case.
- Water pooled inside the waterproof case.

If a water leak is detected ...

① Immediately take the waterproof case out of the water and dry it on the outside.
② Take the digital camera out of the waterproof case. If you see any drops of water on the digital camera, wipe them off at once.
③ Make sure that there are no cracks in the waterproof case body. Check the waterproof sealing for attached foreign particles, flaws, cracks and odd shape.
④ When all is well, start over from the procedure on p.7.

(!) If you find something wrong with the waterproof case, immediately stop using it and contact your FUJIFILM dealer.

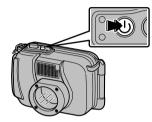
(!) If water has entered the camera body, stop using it immediately and contact your FUJIFILM dealer. Using the camera in a faulty state may cause fire or electric shock. Do not use it in this state under any circumstances.

Any kind of foreign particle attached to the waterproof sealing may cause a water leak. Remove the foreign particles after checking how to on p.16.

Hair

Lint

Sand

ENGLISH

Taking Pictures

- Using the waterproof case, you can take pictures down to 3 m (9.8 ft.) underwater.
- The operation unit functions correspond to individual operations of the camera. For the operating instructions or functions for the camera, see the owner's manual supplied with your camera.

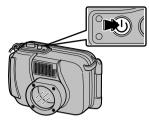
1 Turn the camera on.

Press the ⏻ Power button.

(!) Test-shoot before using the protected camera under water.

2 Hold the waterproof case firmly with both hands.

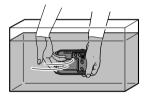
(!) Hold the camera so that your fingers or the strap do not cover the lens, or flash (diffusion plate). If the lens, or flash (diffusion plate) is obscured, subjects may be out of focus or the brightness (exposure) of your shot may be incorrect.

3 Take the pictures.

① Press the Shutter button down halfway to focus.

(!) It is not possible to press the Shutter button halfway while recording movies.

② Press the Shutter button down fully to take a picture.

ENGLISH

After Taking Pictures (Storage)

1 Turn the camera off.

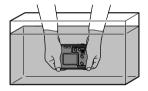
Press the ⏻ Power button to turn the camera off.

(!) Make sure that the camera is turned off.

2 At the end of shooting, immediately fill a bucket or other container with fresh water to wash off the salty sea water.

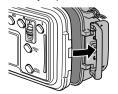
Rinse the outside of the waterproof case well by stirring the water by hand.

(!) If any salt remains on the case, it can cause rust, local malfunctioning, and other problems.

3 Wipe off the water droplets carefully from the waterproof case.

In particular, carefully wipe away the droplets from the joint of the waterproof case.

(!) Use a soft, lint-free piece of cloth or something similar.

(!) Remove the water droplets from under the Shutter button, the buckle and the others.

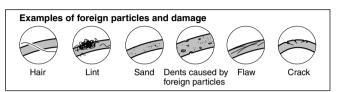
4 Open the waterproof case carefully and take the camera out of it.

- ⚠ Before opening the waterproof case, confirm that your hands and hair are dry and will not drip onto the camera and the inside of the waterproof case.
- ⚠ Open the waterproof case with the lens facing downwards to avoid the camera falling out.
- ⚠ When your hands are wet, make sure not to touch the camera or the battery.
- ⚠ Do not open the waterproof case in places where the inside might get wet or sandy.

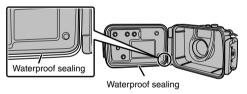
ENGLISH

5 After making sure that there are no water droplets or foreign particles on the waterproof sealing, close the waterproof case and seal it tight. **Wash it thoroughly with fresh water** once again.

Try to remove any remaining salt by lightly moving the various buttons under the water.
We recommend soaking it in fresh water for about 1 hour.

- ⚠ If stored with drops of salty water on it, salt crystals will clog the movement of the buckle and other parts. Rusting may also be caused.

6 After wipe off the water droplets from waterproof case and open the waterproof case a little and dry it in a breezy place out of direct sunlight. After drying the case, store it where it will not be directly exposed to sunlight.

- ⚠ Do not use a hair dryer, warm or hot air, or direct sunlight to dry the waterproof case.

Maintenance

Maintenance after use

Always do this immediately after using the waterproof case. Check that the waterproof sealing has no dents or flaws caused by foreign particles, cracks, or other damage.

Examples of foreign particles and damage

Wipe off any foreign particles attached to the waterproof sealing using soft, lint-free cloth or something similar.

(!) If using tissue paper to wipe it off with, be careful, since fine lint may be left behind.

If foreign particles cannot be removed ...

If foreign particles cannot be removed;
① Remove the waterproof sealing.
② Gently wash the foreign particles off the waterproof sealing with water.
③ Wipe off the water droplets carefully using a soft, lint-free piece of cloth or something similar.
④ After the waterproof sealing is dry, install it into the waterproof case.

(!) When installing the waterproof sealing, match the projection of the waterproof sealing with the dimple of waterproof case.

(!) Install the waterproof sealing, pressing down all around to seat it firmly.

(!) Remove the waterproof sealing with your fingers, taking care not to damage it. Do not use a pointed object, metal, etc.

(!) Do not pull on the waterproof sealing forcibly; a stretched waterproof sealing may impede closing of the waterproof case, or cause a water leak.

(!) When installing the waterproof sealing, make sure that it is evenly seated without twists.

ENGLISH

Notes on Using the Waterproof Case Correctly

- Do not use or store the waterproof case at temperatures above +40 °C/+104 °F.
- Do not use in water above +40 °C/+104 °F, since it may leak.
- When the waterproof case is closed at high altitudes such as on high mountains, or carried by plane, it may be hard to open it on the ground. In such case, insert a plastic card or something similar, of which tip is not pointed, into the joint of the waterproof case.
- Do not use thinner, benzene, alcohol, or other volatile chemicals for cleaning. Applying any such chemicals to the waterproof case may cause damage to its surface, and it will crack under high pressure.
- Do not strike or subject the waterproof case to impacts.
- Do not throw the waterproof case into the water.
- When you use waterproof case in seawater, wash it, while still tightly closed, in a bucketful of fresh water to rinse off the salt. Then dry the outside of the case, using a dry, soft piece of cloth.
- This product is designed to be used under water as a waterproof case. Do not leave it or store it with the camera still inside: the battery may leak or even cause a fire.

■ To avoid water leaks

If this case leaks while using it and soaks the digital camera inside, the camera cannot be repaired. Take the following precautions before use.

- The standard life of the waterproof sealing is about one year, though it depends on operating conditions. Replace the waterproof sealing with a new one once a year.
- Any foreign particles caught in the waterproof sealing may cause a water leak. Wipe them off, making sure that no lint remains stuck to the waterproof sealing. If a foreign particle cannot easily be removed, try washing it off with water.
- If the waterproof sealing is scratched, cracked, discolored or deformed, replace it with a new one.
- When replacing the waterproof sealing, first clean the groove for the waterproof sealing and check that it is free of grains of sand, dust, hair, and other foreign particles.
- If the waterproof sealing is not seated correctly, a water leak may occur. When mounting the waterproof sealing, take care that it stays in the groove and does not become twisted (p.17).
- Do not leave the waterproof case in direct sunlight in summer, in a closed vehicle, or near heating equipment. Do not apply any long-term external force to the waterproof case. Deformation caused by heat or force may cause a loss of water-proofing, making it unusable for use under water.
- Be careful not to damage the waterproof sealing or the face that contacts it by banging them together or letting foreign particles (sand, dust or hair) get between them.

- Carry out the submersion and final test before using the product.
- If you find any signs of water leakage while taking photos, immediately take the product out of the water. Look into the cause and take suitable action.

Specifications

Camera with which it should be used	Digital camera FinePix A400/A500
Pressure resistance	Up to 3 m (9.8 ft.) deep in water
Main materials	Case proper: Transparent polycarbonate Lens window: Reinforced glass
Dimensions (W × H × D)	123 mm × 78 mm × 63 mm / 4.9 in. × 3.1 in. × 2.5 in. (including the attachments)
Weight	Approx. 145 g / 5.1 oz. (not including camera and accessories)

✻ These specifications are subject to change without notice. FUJIFILM shall not be held liable for any damage resulting from errors in this Owner's Manual.

Notes pour la sécurité

Merci d'avoir choisi un de nos produits.
Avant d'employer le produit, n'oubliez pas de lire le "Mode d'emploi", et en particulier les "Notes pour la sécurité", aussi bien que le "Mode d'emploi" de l'appareil photo numérique. Après les avoir lus, gardez-les à proximité afin de pouvoir les consulter facilement à tout moment.

■ Dans ce document, les icônes montrées ci-dessous sont employées pour indiquer la sévérité des blessures ou des dommages qui peuvent résulter si l'information indiquée par l'icône est ignorée ou si le produit est manipulé de façon incorrecte.

⚠ AVERTISSEMENT	Cette icône indique que des blessures graves peuvent se produire si l'information est ignorée.
⚠ ATTENTION	Cette icône indique que l'on risque d'être blessé ou de provoquer des dommages matériels si l'information est ignorée.

■ Les icônes illustrées, ci-dessous, sont utilisées pour indiquer la nature des informations que vous devez observer.

Les icônes triangulaires informent l'utilisateur d'information demandant une importante attention ("Important").

Les icônes circulaires barrées en diagonale vous informent que l'action indiquée est interdite ("Interdite").

Les cercles entourant un point d'exclamation informent l'utilisateur qu'une action doit être effectuée ("Requis").

⚠ AVERTISSEMENT

N'essayez jamais de modifier ou de démonter l'appareil photo.
Cela risque de causer des fuites d'eau.

Ne mettez pas l'appareil photo sur une surface inclinée ou mobile.
Cela risque de faire tomber ou de casser l'appareil et également cela risquerait de causer des blessures ou des dégâts.

N'utilisez que les piles spécifiées pour cet appareil photo.
L'utilisation d'autres sources d'énergie peut causer un incendie.

Utilisez les piles uniquement comme indiqué.
Chargez les piles en respectant les polarités (⊕ et ⊖).

Ne chauffez pas, ne modifiez pas et n'essayez pas de démonter les piles.
Ne laissez pas tomber ou ne soumettez les piles à aucun choc.
Ne stockez pas les piles avec des objets métalliques.
N'essayez pas de recharger des piles alcalines.
N'utilisez pas de chargeur autre que celui indiqué pour ce modèle pour charger des piles rechargeables Ni-MH.
La non conformité aux instructions ci-dessus risque de provoquer l'éclatement de la batterie, ainsi que des fuites, du feu ou des blessures.

Ne laissez pas des cartes xD-Picture Cards à côté de jeunes enfants.
Parce qu'elles sont petites, ces cartes peuvent être accidentellement avalées. N'oubliez pas de stocker ces cartes hors de portée de jeunes enfants. Si un enfant avale une carte **xD-Picture Card**, consultez immédiatement un médecin.

Ne laissez pas cet appareil à côté de jeunes enfants.
Ce produit peut causer des blessures s'il se trouve dans les mains d'un enfant.

N'employez pas l'appareil photo pour regarder le soleil.
Cela peut endommager votre vue.

Faites attention lorsque vous utilisez le caisson étanche avec la dragonne.
Cela risque de faire ballotter le caisson inopinément, entraînant des dommages ou des blessures.

Ne laissez pas l'appareil photo sous-marin dans la lumière du soleil directe ou dans des endroits aux températures extrêmes.
Si la pression à l'intérieur du caisson est élevée due à la chaleur, le couvercle peut s'ouvrir brutalement et causer des dommages ou des blessures.

Ne laissez pas tomber le produit et ne le cognez pas contre des objets durs.
Cela peut fendre le produit et causer des fuites d'eau.

Retirez les piles lorsque vous nettoyez l'appareil photo ou lorsque celui-ci reste inutilisé pendant une période prolongée.
Sinon, la batterie risquerait de fuir ou de s'enflammer.

N'employez pas le flash trop près des yeux d'une personne.
Cela peut temporairement affecter la vue. Faites attention, en particulier, lorsque vous photographiez des enfants.

Ce produit ne doit être ni ouvert ni fermé dans des endroits sableux ou poussiéreux.
Si un grain de sable ou de la poussière s'introduit dans le joint étanche, de l'eau risque de pénétrer dans le caisson étanche.

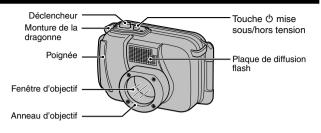
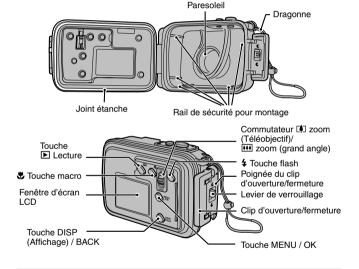
Ne laissez pas le produit dans les endroits aux températures extrêmement élevées ou basses.
Cela risque de l'endommager.

Si l'appareil photo se mouille, retirez immédiatement les piles.
L'appareil photo pourrait prendre feu et vous pourriez vous blesser par inhalation ou explosion de gaz hydrogène.

N'employez pas le produit à des profondeurs excédant 3 m au-dessous de la surface.
Au-delà, il risque de se casser.

Tables des matières

Préface

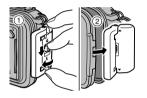
- Fuji Photo Film S.A. n’accepte pas de responsabilité pour des pertes fortuites telles qu’elles soient (tels que des coûts ou des pertes de revenu concernant la photographie) qui proviendraient de susceptibles défauts de ce produit.

■ N’oubliez pas de lire ceci avant tout usage

- Ce caisson étanche est conçu pour l’usage sous-marin à une profondeur maximum de 3 m. Utilisez le avec soin.
- Veuillez suivre les directives de ce mode d’emploi concernant la préparation du caisson étanche avant son utilisation, comment faire un essai préliminaire, comment entretenir le caisson et comment l’entreposer après utilisation. N’employez ce produit uniquement comme décrit dans ce mode d’emploi.
- Fuji Photo Film S.A. n’indemnisera aucun dommage causé à l’appareil photo numérique ou aucune perte fortuite causés par l’utilisation incorrecte du caisson étanche (comme par exemple des particules collées au joint torique).
- Fuji Photo Film S.A. ne compensera aucune blessures, morts ou dégâts matériels causés pendant l’utilisation.

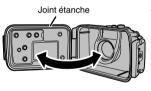
Accessoires inclus

- **Mode d’emploi (cette brochure)**

Légende

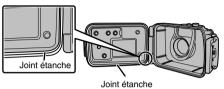
Paresoleil
Dragonne
Joint étanche
Rail de sécurité pour montage

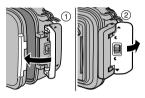
Commutateur [T] zoom (Téléobjectif)/ [W] zoom (grand angle)
Touche ▶ Lecture
⚡ Touche flash
Poignée du clip d’ouverture/fermeture
🌷 Touche macro
Fenêtre d’écran LCD
Levier de verrouillage
Clip d’ouverture/fermeture
Touche DISP (Affichage) / BACK
Touche MENU / OK

- Les fonctions d’unité opératoires correspondent aux opérations individuelles de l’appareil photo. Vérifiez les fonctions de l’unité dans le “Mode d’emploi” de l’appareil photo numérique.
- Une feuille de protection recouvre la fenêtre d’écran LCD lors de votre achat. N’oubliez pas d’enlever cette feuille avant l’emploi.

Essai préliminaire du caisson

Faire un essai préliminaire d’immersion du caisson étanche avant d’y placer l’appareil photo numérique

Avant d’installer l’appareil photo numérique dans le caisson, veillez à ce que celui-ci soit bien étanche.

1 Examinez l’extérieur du caisson étanche pour vérifier s’il n’y a aucune fissure ou défaut.

2 Ouvrez le caisson étanche.

① Abaissez le levier de verrouillage (◖), tenez la partie supérieure et la partie inférieure (position des signes ▲▼) de la poignée du clip d’ouverture/fermeture et soulevez-la.
② Débloquez le clip d’ouverture/ fermeture pour ouvrir le caisson étanche.

3 Examinez l’intérieur du caisson étanche pour les points suivants :

- S’assurer qu’il n’y a aucune fissure (notamment autour du joint étanche)
- S’assurer que le joint étanche est correctement installé
- S’assurer que le joint étanche n’a aucune éraflure ou fissure et qu’il n’est pas déformé, tordu, etc.
- S’assurer que le joint étanche est propre (retirer le sable ou les particules)

FRANÇAIS

Essai préliminaire du caisson

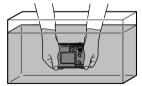
Retirez les particules collées au joint avec un morceau de tissu doux et non pelucheux.

(!) Si vous utilisez du papier de soie ou des mouchoirs en papier, vérifiez bien que de fines fibres ne se déposent pas sur le joint.

4 Fermez le caisson étanche.

Refermez le caisson étanche après avoir serré correctement le clip d'ouverture/fermeture.

(!) Lorsque vous fermez le caisson étanche, veillez à ce que la dragonne ne se coince pas dans la boucle.
Cela pourrait provoquer des fuites d'eau.

5 Mettez le caisson étanche vide dans une bassine ou une baignoire remplie d'eau et assurez vous qu'il n'y a pas de fuites d'eau. Pour vérifier le montage des joints toriques, voir la P.10.

Pour éviter les fuites d'eau

Les particules collées au joint étanches peuvent provoquer des fuites d'eau. Vous devez donc les enlever. Si vous n'y parvenez pas, installez un joint étanche neuf (p.17).

Cheveux

Fibres

Sable

Mettre l’appareil photo numérique dans le caisson étanche

Avant installation, effectuez les vérifications suivantes :

- Pour éviter des pertes d’énergie lorsque vous prenez des photos sous l’eau, vérifiez l’état des piles. Le cas échéant, remplacez les piles usagées par des piles alcalines neuves ou rechargez les piles rechargeables Ni-MH.
- Vérifiez combien de nouvelles photos peuvent être stockées sur la carte **xD-Picture Card**.
- Enlevez la dragonne de l’appareil photo numérique. L’usage de l’appareil photo dans le caisson étanche avec la dragonne peut causer des fuites d’eau.

1 Mettez l’appareil photo hors tension.

2 Ouvrez le caisson étanche (P.7), puis insérez l’appareil photo.

Glissez l’appareil photo dans le caisson jusqu’à ce qu’il soit correctement bloqué.

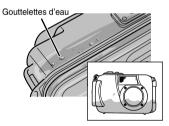
3 Assurez-vous des points suivants avant de fermer le caisson étanche.

Joint étanche

- Il ne doit y avoir aucune poussière, cheveu ou autres corps étrangers sur le joint étanche ou sur le côté du caisson étanche qui correspond au joint étanche.
- L’appareil photo doit être correctement posé et aligné dans le caisson étanche.

4 Lorsque toutes les vérifications sont effectuées, refermez le caisson étanche (P.8).

→ Vérifiez que la touche ⏻ mise sous/hors tension de l’appareil photo ou que tout autre touche fonctionne correctement à l’aide des commandes du caisson.

FRANÇAIS

Effectuez un essai final

Effectuez un essai final d'immersion du caisson étanche après montage de l'appareil photo numérique. Vérifiez si vous apercevez des fuites d'eau lorsque vous immergez le caisson dans une bassine ou une baignoire remplie d'eau. Si besoin est, c'est-à-dire si vous apercevez une fuite d'eau, soyez prêt à retirer l'ensemble immédiatement de l'eau (afin de protéger l'appareil photo à l'intérieur).

1 Immergez l'ensemble dans l'eau pendant 30 secondes.

- Si vous voyez un écoulement continu de bulles d'air à partir du joint du caisson étanche dans l'eau, ceci indique une fuite.
- Si, au contraire tout va bien, actionnez les boutons et prennez quelques photos d'essai dans l'eau.

2 Après avoir soulevé doucement le caisson étanche hors de l'eau, vérifiez attentivement ce qui suit :

- Gouttelettes d'eau près du joint du caisson étanche.
- Traces d'eau à l'intérieur du caisson étanche.

Si des gouttelettes d'eau sont détectées ...

① Enlevez immédiatement le caisson étanche de l'eau et séchez en l'extérieur.
② Enlevez l'appareil photo numérique du caisson étanche. Si vous voyez des gouttes d'eau sur l'appareil photo numérique, essuyez-les immédiatement.
③ Vérifiez qu'il n'y a aucune fissure dans le corps du caisson étanche. Examinez le joint étanche pour vous assurer qu'il n'y a pas de particules, défauts, fissures ou déformations.
④ Si tout est bien, recommencez en utilisant le procédé détaillé en P.7.

(!) Si vous trouvez des anomalies dans le caisson étanche, arrêtez immédiatement de l'utiliser et prenez contact avec votre revendeur FUJIFILM.

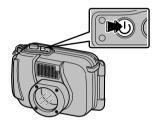
(!) Si l'eau est entrée dans le corps de l'appareil photo, cessez immédiatement de l'utiliser et prenez contact avec votre revendeur FUJIFILM. Utiliser l'appareil photo dans un état défectueux peut causer une décharge électrique ou un début d'incendie. Ne l'utilisez jamais dans cet état, dans aucune circonstance.

La moindre particule collée au joint étanche peut provoquer des fuites d'eau. Enlevez les particules étrangères en suivant les instructions données en P.16.

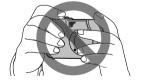
Cheveux

Fibres

Sable

FRANÇAIS

Prises de vues

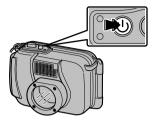
- En utilisant le caisson étanche, vous pouvez prendre des photos jusqu'à 3 m sous l'eau.
- Les fonctions de l'unité correspondent à celles de l'appareil photo. Pour obtenir les instructions de fonctionnement ou pour connaître les fonctions de l'appareil photo, reportez-vous au mode d'emploi fourni avec l'appareil photo.

1 Mettez l'appareil photo sous tension.

Appuyez sur la touche ⏻ mise sous/hors tension.

(!) Prenez quelques photos avant de mettre le caisson dans l'eau.

2 Tenez le caisson étanche fermement avec les deux mains.

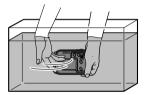
(!) Tenez fermement l'appareil photo en prenant soin de ne pas obstruer l'objectif ou le flash (plaque de diffusion) avec vos doigts ou avec la dragonne. Si l'objectif ou le flash (plaque de diffusion) est obstrué, le sujet risque de se retrouver hors champ ou la luminosité (exposition) de votre photo ne sera pas optimale.

3 Effectuez des prises de vues.

① Appuyez à mi-course sur le déclencheur pour faire la mise au point.

(!) Il n’est pas possible d’appuyer à mi-course sur le déclencheur en mode Vidéo.

② Appuyez à fond sur le déclencheur pour prendre une photo.

FRANÇAIS

Après les prises de vues (stockage)

1 Mettez l’appareil photo hors tension.

Appuyez sur la touche ⏻ mise sous/hors tension pour mettre l’appareil photo hors tension.

(!) Assurez-vous que l’alimentation électrique est vraiment coupée.

2 À l’issue des prises de vues, remplissez immédiatement un seau ou tout autre récipient d’eau douce pour enlever l’eau de mer salée.

Veillez à bien rincer l’extérieur du caisson étanche en remuant l’eau à la main.

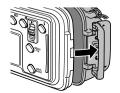
(!) Si du sel reste sur le caisson, cela peut causer de la corrosion, des défauts de fonctionnement et autres problèmes.

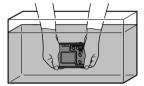
3 Essuyez soigneusement les gouttelettes d’eau sur le caisson étanche.

En particulier, essuyez soigneusement les gouttelettes du joint du caisson étanche.

(!) Utilisez un morceau de tissu doux et non pelucheux ou quelque chose de semblable.

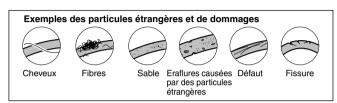
(!) Enlevez les gouttelettes d’eau sous le déclencheur, le clip d’ouverture/fermeture, etc.

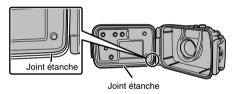
4 Ouvrez délicatement le caisson étanche et sortez l'appareil photo.

- Avant d'ouvrir le caisson étanche, assurez-vous que vos mains et vos cheveux sont secs et que rien ne s'égouttera sur l'appareil photo et à l'intérieur du caisson étanche.
- Ouvrez le caisson étanche en dirigeant l'objectif vers le bas pour éviter que l'appareil photo ne tombe.
- Si vos mains sont mouillées, veuillez absolument à ne pas toucher l'appareil photo ou la batterie.
- N'ouvrez pas le caisson étanche dans des endroits où l'intérieur pourrait être mouillé ou recevoir du sable.

5 Après avoir vérifié que le joint étanche est totalement sec et propre, refermez correctement le caisson étanche. **Lavez-le complètement avec de l'eau douce** de nouveau.

Essayez d'enlever tout sel resté en tournant légèrement les divers touches dans l'eau.
Nous vous recommandons de le laisser tremper dans de l'eau claire environ 1 heure.

- Si vous rangez le caisson étanche alors qu'il n'est pas complètement sec, des cristaux de sel risquent d'obstruer le mouvement du clip d'ouverture/fermeture, ainsi que celui des autres pièces. Les cristaux de sel ont également une action corrosive.

FRANÇAIS

6 Après avoir séché la surface du caisson étanche, ouvrez-le légèrement et laissez-le sécher à l'air libre et à l'abri du soleil. Après avoir séché le caisson, mettez-le où il ne sera pas directement exposée à la lumière du soleil.

- N'employez pas un sèche-cheveux, de l'air tiède ou chaud, ou la lumière directe du soleil pour sécher le caisson étanche.

Entretien

Entretien après utilisation

Faites toujours ceci juste après l'utilisation du caisson étanche. Vérifiez que le joint étanche n'a subi aucune détérioration ou ne présente aucune fissure provoquée par des particules.

Exemples des particules étrangères et de dommages

Retirez les particules collées au joint étanche avec un morceau de tissu doux et non pelucheux.

(!) Si vous utilisez du papier de soie ou des mouchoirs en papier, vérifiez bien que de fines fibres ne se déposent pas sur le joint.

Si vous n’arrivez pas à enlever les particules…

Si vous n’arrivez pas à enlever les particules ;

① Retirez le joint étanche.
② Lavez le joint étanche à l’eau pour retirer les particules.
③ Séchez les gouttelettes d’eau à l’aide d’un chiffon doux et non pelucheux.
④ Une fois que le joint étanche est sec, replacez-le sur le caisson étanche.

(!) Lorsque vous remettez le joint étanche en place, veillez à ce qu’il adhère parfaitement à la paroi du caisson étanche.

(!) Installez le joint torique en appuyant dessus pour qu’il adhère parfaitement à la paroi.

(!) Retirez le joint torique avec vos doigts en prenant soin de ne pas l’endommager. N’utilisez pas d’objet pointu ou métallique.

(!) Ne forcez pas sur le joint torique lors de l’installation ; si vous tendez trop le joint torique, vous risquez de ne pas pouvoir fermer correctement le caisson étanche, ce qui peut provoquer des fuites d’eau.

(!) Lorsque vous installez le joint torique, assurez-vous qu’il adhère uniformément à la paroi et qu’il n’est pas entortillé.

Notes pour employer le caisson étanche correctement

- N’employez pas, et ne gardez pas non plus le caisson étanche à des températures dépassant +40 °C.
- Ne l’employez pas dans de l’eau dont la température excède +40 °C, car alors il pourrait fuir.
- Si vous refermez le caisson étanche à très haute altitude (en haute montagne ou dans un avion), il est possible que vous ayez des difficultés à le rouvrir à une altitude moins élevée. Le cas échéant, insérez une carte en plastique ou un objet similaire non pointu dans le joint du caisson étanche.
- N’employez pas du diluant, benzène, alcool, ou d’autres produits chimiques volatils pour le nettoyage. L’application de tels produits chimiques sur le caisson étanche peut en endommager la surface, et causer des fissures sous haute pression.
- Ne cognez pas, ne donnez pas d’impacts forts au caisson étanche.
- Ne jettez pas le caisson étanche dans l’eau.
- Si vous employez le caisson étanche dans l’eau de mer, lavez-le dans un seau d’eau douce pour en enlever le sel, tandis qu’il est encore fermé et étanche. Séchez ensuite l’extérieur du caisson, en utilisant un morceau de tissu sec et doux.
- Ce produit est conçu pour être employé dans l’eau comme caisson étanche. Ne le laissez pas, ne le stockez pas non plus avec l’appareil photo à l’intérieur : la batterie peut fuir et même déclencher un feu.

■ Pour éviter des fuites d’eau

Si ce caisson fuit tandis que vous l’employez et mouille l’appareil photo numérique à l’intérieur, l’appareil photo ne peut pas être réparé. Prenez les précautions suivantes avant utilisation.

- La durée de vie normale d’un joint étanche est d’environ un an, bien que cela dépende des conditions d’utilisation. Changez le joint étanche tous les ans.
- Les particules collées au joint étanche peuvent provoquer des fuites d’eau. Veillez à les retirer en vérifiant qu’aucune fibre ne reste collée au joint étanche. Si vous n’arrivez pas à enlever les particules, passez le joint étanche sous l’eau.
- Si le joint étanche est rayé, fendu, décoloré ou déformé, remplacez-le par un joint neuf.
- Lorsque vous remplacez le joint étanche, nettoyez tout d’abord la rainure en retirant les grains de sable, la poussière, les cheveux et autres particules.
- Si le caisson étanche n’est pas correctement fermé, des fuites d’eau peuvent se produire. Lorsque vous installez le joint étanche, veillez à ce qu’il soit correctement inséré dans la rainure et qu’il ne soit pas tordu (p.17).
- Ne laissez pas le caisson étanche à la lumière du soleil directe en été, dans un véhicule fermé, ou à côté d’équipement de chauffage. N’appliquez aucune force externe pendant une longue durée au caisson étanche. La déformation causée par la chaleur ou la force peut causer une perte d’étanchéité, le rendant inutilisable dans l’eau.
- Veillez à ne pas endommager le joint étanche ou sa surface de contact lors de la fermeture du caisson étanche et vérifiez qu’aucune particule (sable, poussière ou cheveux) ne se trouve entre le joint et la surface.

- N'ultisez le caission étanche qu'après un essai d'immersion et un essai final.
- Si vous avez trouvé des signes de fuite d'eau tout en prenant des photos, retirez immédiatement le produit hors de l'eau. Examinez la cause et prenez les mesures appropriées.

Caractéristiques

Appareil avec lequel le produit devrait être utilize	Appareil photo numérique de FinePix A400/A500
Résistance à la pression	Jusqu'à 3 m de profondeur dans l'eau maximum
Matériaux principaux	Caisse : polycarbonate transparent Fenêtres d'objectif : Verre trempé
Dimensions (W × H × D)	123 mm × 78 mm × 63 mm (accessoires compris)
Poids	Environ 145 g (l'appareil photo et les accessoires ne sont pas inclus.)

✻ Sous réserve de modifications sans préavis. FUJIFILM n'acceptera aucune responsabilité à la suite de dégâts éventuels proventuels provenant d'erreurs dans ce mode d'emploi.

Sicherheitshinweise

Vielen Dank für den Kauf dieses Produktes.

Bevor Sie dieses Produkt verwenden, lesen Sie unbedingt diese Bedienungsanleitung, insbesondere die Sicherheitshinweise und ebenfalls die Bedienungsanleitung für die Digitalkamera. Nachdem Sie diese durchgelesen haben, halten Sie diese zur Hand, so dass Sie dort jederzeit schnell nachschlagen können.

■ Die folgenden Symbole werden in diesem Dokument verwendet, um den Schweregrad der Verletzungen oder Schäden anzuzeigen, die entstehen können, wenn die mit dem Symbol gekennzeichnete Information ignoriert oder das Produkt nicht ensprechend bedient wird.

Symbol	Bedeutung
⚠ **WARNUNG**	Dieses Symbol zeigt an, dass es bei Nichtbeachtung der Information zu schweren Verletzungen führen kann.
⚠ **VORSICHT**	Dieses Symbol zeigt an, dass es bei Nichtbeachtung der Information zu persönlichen Verletzungen oder Sachschäden führen kann.

■ Die folgenden Symbole zeigen die Art der zu beachtenden Information an.

Symbol	Bedeutung
	Dreieckige Symbole weisen den Benutzer auf eine Information hin, die beachtet werden muss ("Wichtig").
	Kreisförmige Symbole mit einem diagonalen Strich weisen den Benutzer darauf hin, dass die angegebene Aktion verboten ist ("Verboten").
	Gefüllte Kreise mit einem Ausrufezeichen weisen den Benutzer auf eine Maßnahme hin, die durchgeführt werden muss ("Erforderlich").

⚠ WARNUNG

Nicht auseinandernehmen.

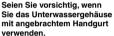
Versuchen Sie niemals, dieses Produkt zu modifizieren oder auseinanderzunehmen.
Dies kann zu Wassereintritt führen.

Legen Sie dieses Produkt nicht auf eine schräge oder sich bewegende Oberfläche.
Dies kann dazu führen, dass das Produkt herunter- oder umfällt und Schäden oder Verletzungen verursacht.

Verwenden Sie nur die Akkus, die für die Verwendung mit der Kamera spezifiziert sind.
Die Verwendung von anderen Stromquellen kann zu Feuergefahr führen.

Verwenden Sie die Akkus nur auf die angegebene Weise.
Achten Sie beim Laden der Akkus auf die Markierungen ⊕ und ⊖.

Erhitzen oder verändern Sie die Akkus nicht und versuchen Sie nicht, sie zu zerlegen.
Lassen Sie die Akkus nicht fallen und setzen Sie sie keinen Stößen aus.
Lagern Sie die Akkus nicht zusammen mit metallischen Produkten.
Versuchen Sie nicht, Alkalibatterien aufzuladen.
Verwenden Sie zum Aufladen der aufladbaren Ni-MH-Akkus keine anderen Ladegeräte als das dafür spezifizierte Modell.
Wird eine der oben aufgeführten Anweisungen nicht beachtet, kann der Akku explodieren oder auslaufen und somit Feuer oder Verletzungen verursachen.

Halten Sie die xD-Picture Cards außerhalb der Reichweite von Kleinkindern.
Da die **xD-Picture Card**s klein sind, können sie versehentlich verschluckt werden. Bewahren Sie die **xD-Picture Card**s unbedingt außerhalb der Reichweite von Kleinkindern auf. Falls ein Kind eine **xD-Picture Card** geschluckt hat, wenden Sie sich sofort an einen Arzt.

Außerhalb der Reichweite von Kleinkindern halten.
Dieses Produkt kann in den Händen eines Kindes zu Verletzungen führen.

Verwenden Sie nicht die Kamera dazu, um in die Sonne zu blicken.
Es kann zur Beschädigung Ihrer Augen führen.

Seien Sie vorsichtig, wenn Sie das Unterwassergehäuse mit angebrachtem Handgurt verwenden.
Dies könnte zu unerwarteten Schwingungen des Gehäuses führen und infolgedessen Schäden oder Verletzungen verursachen.

Belassen Sie das Unterwassergehäuse nicht in direktem Sonnenlicht oder an Orten mit extrem hohen Temperaturen.
Falls der Druck im Inneren des Gehäuses aufgrund der Hitze ansteigt, kann sich der Deckel schlagartig öffnen und zu Verletzungen führen.

⚠ VORSICHT

Lassen Sie dieses Produkt nicht fallen, oder schlagen Sie es nicht gegen harte Objekte.
Dadurch könnte das Produkt Sprünge bekommen und Wassereintritt verursachen.

Nehmen Sie die Akkus aus der Kamera, wenn Sie die Kamera reinigen oder sie längere Zeit nicht verwenden werden.
Nichteinhaltung dieser Maßnahme kann zum Auslaufen des Akkus oder zu Feuergefahr führen.

Verwenden Sie das Blitzlicht nicht zu nahe an den Augen einer Person.
Die Sehkraft kann vorübergehend beeinträchtigt werden. Lassen Sie besondere Vorsicht walten, wenn Sie Babys oder Kleinkinder fotografieren.

Öffnen oder schließen Sie dieses Produkt nicht an sandigen oder staubigen Orten.
Wenn ein Sandkorn oder Staub an der wasserdichten Dichtung haftet, kann es zu einem Wassereintritt kommen.

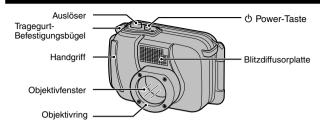
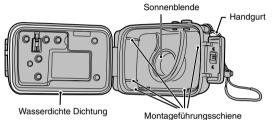
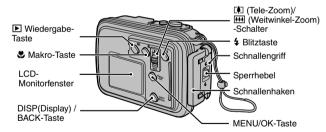
Belassen Sie dieses Produkt nicht an einem Ort mit extrem hohen oder niedrigen Temperaturen.
Dies kann zu Fehlbetrieb führen.

Entfernen Sie sofort die Akkus aus der Kamera, wenn die Kamera nass wird.
Durch eine Entzündung oder Explosion von Wasserstoffgas kann es sonst zu Feuer oder Verletzungen kommen.

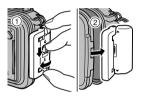
Verwenden Sie dieses Produkt nicht in Tiefen von mehr als 3 m unter der Wasseroberfläche.
Es kann zu Fehlbetrieb führen.

Inhalt

Vorbemerkungen

- Fuji Photo Film Co., Ltd. übernimmt keine Haftung für Verluste (wie z.B. die Kosten für Fotoabzüge oder den Verdienstausfall bei nicht gelungenen Fotos), die auf Fehler an diesem Produkt zurückzuführen sind.

■ Lesen Sie vor der Verwendung unbedingt das Folgende

- Dieses Unterwassergehäuse ist für eine Wassertiefe von bis zu 3 m konstruiert. Behandeln Sie das Gehäuse vorsichtig.
- Bitte folgen Sie den Richtlinien in dieser Anleitung hinsichtlich der Vorbereitung des Unterwassergehäuses vor der Verwendung, der vorläufigen Kontrolle, der Wartung des Gehäuses und der Aufbewahrung nach der Verwendung. Behandeln Sie dieses Produkt nur nach der Beschreibung dieser Anleitung.
- Fuji Photo Film Co., Ltd. entschädigt nicht für etwaige Beschädigungen der Digitalkamera oder Verluste aufgrund von ungeeigneter Verwendung des Unterwassergehäuses (wie zum Beispiel Fremdkörper, die an der wasserdichten Dichtung haften).
- Fuji Photo Film Co., Ltd. entschädigt nicht für persönliche Verletzungen, Todesfolge oder Sachschäden, die auf Mängel an diesem Produkt zurückzuführen sind.

Mitgeliefertes Zubehör

- **Bedienungsanleitung (dieses Handbuch)**

Bezeichnung der Teile

- Die Funktionen der Regler entsprechen den einzelnen Betätigungsarten der Kamera. Vergewissern Sie sich über die Funktionen der Regler in der “Bedienungsanleitung” für die Digitalkamera.
- Bei Erwerbszustand dieses Gerätes ist eine Schutzfolie an dem LCD-Monitorfenster angebracht. Ziehen Sie diese Folie vor der Benutzung unbedingt ab.

Vorbereitende Überprüfung des Gehäuses

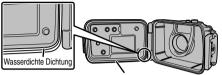
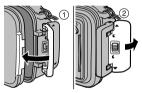
Führen Sie vor dem Einsetzen der Digitalkamera eine vorläufige Eintauchprüfung des Unterwassergehäuses durch

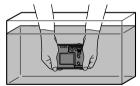
Stellen Sie, bevor Sie die Kamera in das Gehäuse einsetzen, sicher, dass kein Wasser eindringt.

1 Kontrollieren Sie die Außenseite des Unterwassergehäuses und stellen Sie sicher, dass weder Sprünge noch Kratzer vorhanden sind.

2 Öffnen Sie das Unterwassergehäuse.

① Schieben Sie den Sperrhebel nach unten (◖), halten Sie die Ober- und Unterseite (die Position der Markierungen ▲▼) des Schnallengriffs fest und heben Sie ihn an.
② Entriegeln Sie den Schnallenhaken, um das Unterwassergehäuse zu öffnen.

3 Kontrollieren Sie die Innenseite des Unterwassergehäuses auf Folgendes:

- Sprünge (insbesondere rund um die wasserdichte Dichtung)
- Richtige Positionierung der wasserdichten Dichtung
- Dass die wasserdichte Dichtung keine Kratzer oder Risse aufweist, unregelmäßig geformt ist usw.
- An der wasserdichten Dichtung haftende Sandkörner oder Fremdkörper

Wenn irgendwelche Fremdkörper an der wasserdichten Dichtung haften, wischen Sie sie mit einem weichen, flusenfreien Tuch o.ä. ab.

(!) Falls Sie Kosmetiktücher zum Abwischen verwenden, achten Sie darauf, dass keine feinen Fasern zurückbleiben.

4 Schließen Sie das Unterwassergehäuse.

Schließen Sie das Unterwassergehäuse, nachdem Sie den Schnallenhaken sicher arretiert haben.

(!) Achten Sie beim Schließen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich der Handgurt nicht in der Schnalle verfängt.
Ansonsten kann Wasser eindringen.

5 Tauchen Sie das leere Unterwassergehäuse in einen Wassertank oder eine Badewanne ein, und kontrollieren Sie auf Wassereintritt. Wie Sie es kontrollieren sollen, lesen Sie auf S.10.

Um Wassereintritt vorzubeugen

Falls Fremdkörper an der wasserdichten Dichtung haften, kann es zu einem Wassereintritt kommen. Entfernen Sie die Fremdkörper. Falls Sie sie nicht entfernen können, wechseln Sie die wasserdichte Dichtung gegen eine neue aus (S. 17).

Haar

Fluse

Sand

Einsetzen der Digitalkamera in das Unterwassergehäuse

Überprüfen Sie vor der Montage Folgendes:
- Überprüfen Sie die verbleibende Akkuleistung, um zu verhindern, dass Ihnen beim Fotografieren unter Wasser der Strom ausgeht. Wenn die verbleibende Akkuleistung nicht ausreichend ist, ersetzen Sie die Alkalibatterien durch neue oder ersetzen Sie die aufladbaren Ni-MH-Akkus durch voll aufgeladene.
- Stellen Sie fest, wie viele neue Aufnahmen auf der **xD-Picture Card** noch gespeichert werden können.
- Falls der Handgurt an der Digitalkamera angebracht ist, nehmen Sie diesen unbedingt ab. Die Verwendung der Kamera, wenn sie samt dem Handgurt im Unterwassergehäuse eingesetzt ist, kann Wassereintritt herbeiführen.

1 Schalten Sie die Kamera aus.

2 Öffnen Sie das Unterwassergehäuse (S. 7) und platzieren Sie die Kamera darin.

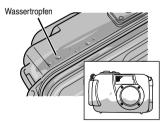
Setzen Sie die Kamera richtig in das Unterwassergehäuse ein.

3 Überprüfen Sie Folgendes, bevor Sie das Unterwassergehäuse schließen.

Wasserdichte Dichtung

- Es dürfen kein Staub, keine Haare oder andere Fremdkörper an der wasserdichten Dichtung oder an der Seite des Unterwassergehäuses haften, in die die wasserdichte Dichtung einrastet.
- Die Kamera ist im Unterwassergehäuse richtig positioniert und ausgerichtet.

4 Schließen Sie das Unterwassergehäuse, wenn alles in Ordnung ist (S.8).

→ Prüfen Sie, ob die ⏻ Power-Taste der Kamera und alle anderen Teile mit der Steuerung am Gehäuse richtig bedient werden können.

Ausführen einer endgültigen Prüfung

Führen Sie nach dem Einsetzen der Kamera in das Unterwassergehäuse eine endgültige Eintauchprüfung durch. Um auf Wassereintritt zu kontrollieren, tauchen Sie das Unterwassergehäuse in einen mit Wasser gefüllten Wassertank oder eine Badewanne ein, und kontrollieren Sie auf möglichen Wassereintritt. Führen Sie diese Prüfung so aus, durch Sie das Unterwassergehäuse sofort aus dem Wasser herausnehmen können (um die sich innen befindende Kamera zu retten), falls es nötig sein sollte.

1 Lassen Sie das Unterwassergehäuse für 30 Sekunden im Wasser.

- Falls Sie im Wasser Luftblasen aus der Fuge des Unterwassergehäuses ununterbrochen aufsteigen sehen, weist dies auf Wassereintritt hin.
- Falls alles in Ordnung ist, bedienen Sie die Tasten und machen Sie im Wasser einige Probe-Aufnahmen.

2 Nachdem Sie das Unterwassergehäuse langsam aus dem Wasser herausgenommen haben, kontrollieren Sie ganz genau auf Folgendes:

- Wassertropfen in der Nähe der Fuge des Unterwassergehäuses.
- Wasser hat sich an der Innenseite des Unterwassergehäuses angesammelt.

Falls Wassereintritt festgestellt wird …

① Nehmen Sie sofort das Unterwassergehäuse aus dem Wasser und trocknen Sie die Außenseite.
② Nehmen Sie die Digitalkamera aus dem Unterwassergehäuse. Falls Sie Wassertropfen auf der Digitalkamera sehen, wischen Sie diese gleich ab.
③ Stellen Sie fest, ob das Unterwassergehäuse Sprünge aufweist. Kontrollieren Sie die wasserdichte Dichtung auf anhaftende Fremdkörper, Defekte, Risse und unregelmäßige Verformungen.
④ Falls alles in Ordnung ist, fangen Sie nochmals mit dem Vorgang auf S.7 von vorne an.

(!) Falls Sie eventuelle Mängel am Unterwassergehäuse finden, stellen Sie sofort dessen Verwendung ein und wenden Sie sich an Ihren FUJIFILM Fachhändler.

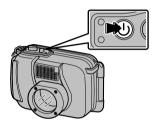
(!) Falls Wasser in die Kamera eingedrungen ist, stellen Sie sofort deren Verwendung ein und wenden Sie sich an Ihren FUJIFILM Fachhändler. Falls Sie die Kamera in einem fehlerhaften Zustand betätigen kann es zu Feuer oder elektrischem Schlag führen. Verwenden Sie die Kamera niemals im oben beschriebenen Zustand.

Jegliche Art von Fremdkörper an der wasserdichten Dichtung kann einen Wassereintritt verursachen. Entfernen Sie die Fremdkörper nach der Anweisung auf S.16.

Haar

Fluse

Sand

DEUTSCH

Fotografieren

- Unter Verwendung des Unterwassergehäuses können Sie in einer Wassertiefe von bis zu 3 m Aufnahmen machen.
- Die Funktionen der Bedienungseinheit entsprechen den einzelnen Operationen der Kamera. Informationen zur Bedienungsanleitung oder den Funktionen der Kamera finden Sie in der Bedienungsanleitung, die im Lieferumfang Ihrer Kamera enthalten war.

1 Schalten Sie die Kamera ein.

Drücken Sie die ⏻ Power-Taste.

(!) Machen Sie Probeaufnahmen, bevor Sie die Kamera im Gehäuse unter Wasser verwenden.

2 Halten Sie das Unterwassergehäuse mit beiden Händen fest.

(!) Halten Sie die Kamera so, dass das Objektiv oder der Blitz (Blitzdiffusorplatte) nicht von Ihren Fingern oder dem Tragegurt verdeckt werden. Wenn das Objektiv oder der Blitz (Diffusorplatte) verdeckt werden, kann das Objekt unscharf sein oder die Helligkeit (Belichtung) der Aufnahme ist nicht richtig.

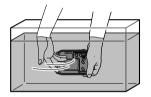
3 Nehmen Sie Bilder auf.

① Drücken Sie den Auslöser zur Hälfte nieder, um das Bild scharf zu stellen.

(!) Während der Filmaufnahme kann der Auslöser nicht bis zur Hälfte niedergedrückt werden.

② Drücken Sie den Auslöser vollständig nieder, um ein Bild aufzunehmen.

DEUTSCH

Nach der Aufnahme (Aufbewahrung)

1 Schalten Sie die Kamera aus.

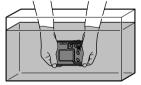
Betätigen Sie die ⏻ Power-Taste, um die Kamera auszuschalten.

(!) Achten Sie darauf, dass die Stromversorgung der Kamera ausgeschaltet ist.

2 Wenn Sie mit den Aufnahmen fertig sind, füllen Sie sofort einen Eimer oder anderen Behälter mit Frischwasser, um das salzige Meerwasser abzuwaschen.

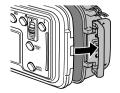
Achten Sie darauf, die Außenseite des Unterwassergehäuses gut abzuspülen, indem Sie das Wasser mit der Hand rühren.

(!) Falls Reste von Salzablagerung am Gehäuse zurückbleiben, kann dies zu Bildung von Rost, schlechterer Funktion der einzelnen Bedienelemente und anderen Problemen führen.

3 Wischen Sie die Wassertropfen sorgfältig vom Unterwassergehäuse ab.

Wischen Sie insbesondere die Tropfen von der Fuge des Unterwassergehäuses sorgfältig ab.

(!) Verwenden Sie ein weiches, flusenfreies Tuch oder Ähnliches.

(!) Entfernen Sie die Wassertröpfchen unter dem Auslöser, der Schnalle und den anderen Bedienelementen.

4 Öffnen Sie das Unterwassergehäuse vorsichtig und nehmen Sie die Kamera heraus.

- Bevor Sie das Unterwassergehäuse öffnen, beachten Sie dass Ihre Hände und Haare getrocknet sind und keine Wassertropfen auf die Kamera oder in die Innenseite des Unterwassergehäuses gelangen können.
- Öffnen Sie das Unterwassergehäuse mit nach unten weisendem Objektiv, um zu verhindern, dass die Kamera herausfällt.
- Falls Ihre Hände nass sind, achten Sie darauf, dass Sie nicht die Kamera oder der Akku anfassen.
- Öffnen Sie das Unterwassergehäuse nicht an Orten, an denen Wasser oder Sand in die Innenseite des Gehäuses gelangen könnte.

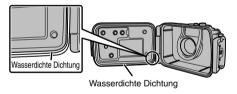
5 Nachdem Sie festgestellt haben, dass keine Wassertropfen oder Fremdkörper an der wasserdichten Dichtung haften, schließen Sie das Unterwassergehäuse und verschließen Sie es fest. **Waschen Sie das Unterwassergehäuse noch einmal mit Frischwasser gründlich ab**.

Versuchen Sie, alle Reste von Salzablagerung zu entfernen, indem Sie im Wasser auf die einzelnen Knöpfe leicht drücken.
Wir empfehlen, das Gehäuse eine Stunde in Frischwasser einweichen zu lassen.

- Wenn das Unterwassergehäuse mit Salzwassertropfen darauf gelagert wird, können Salzkristalle die Bewegung der Schnalle und anderer Teile behindern. Außerdem können die Teile rosten.

6 Wischen Sie die Wassertropfen vom Unterwassergehäuse, öffnen Sie das Unterwassergehäuse danach ein wenig und lassen Sie es an einem gut durchlüfteten und schattigen Ort trocknen. Wenn Sie das Gehäuse getrocknet haben, bewahren Sie es an einem Ort auf, der keinem direkten Sonnenlicht ausgesetzt ist.

- Verwenden Sie keinen Fön, keine Warm- oder Heißluft und kein direktes Sonnenlicht, um das Unterwassergehäuse zu trocknen.

Wartung

Pflege nach der Verwendung

Führen Sie sofort nach jeder Verwendung des Unterwassergehäuses Folgendes durch. Kontrollieren Sie, ob die wasserdichte Dichtung keine durch Fremdkörper verursachten Dellen oder Defekte, Risse oder andere Beschädigungen aufweist.

Beispiele von Fremdkörpern und Beschädigungen

Wischen Sie alle Fremdkörper, die an der wasserdichten Dichtung haften, mit einem weichen, flusenfreien Tuch o.ä. ab.

(!) Falls Sie Kosmetiktücher zum Abwischen verwenden, achten Sie darauf, dass keine feinen Fasern zurückbleiben.

Wenn Fremdkörper nicht entfernt werden können ...

Wenn Fremdkörper nicht entfernt werden können:
① Entfernen Sie die wasserdichte Dichtung.
② Waschen Sie die Fremdkörper vorsichtig mit Wasser von der wasserdichten Dichtung.
③ Wischen Sie die Wassertropfen vorsichtig mit einem weichen, fusselfreien Tuch oder etwas ähnlichem ab.
④ Bringen Sie die wasserdichte Dichtung am Unterwassergehäuse an, nachdem sie trocken ist.

(!) Passen Sie, wenn Sie die wasserdichte Dichtung anbringen, die Ausbuchtung der wasserdichten Dichtung in die Vertiefung des Unterwassergehäuses ein.

(!) Bringen Sie die wasserdichte Dichtung an und drücken Sie sie rundherum nach unten, sodass sie fest sitzt.

(!) Entfernen Sie die wasserdichte Dichtung mit den Fingern und achten Sie darauf sie nicht zu beschädigen. Verwenden Sie keine spitzen Objekte, Metall usw.

(!) Ziehen Sie nicht gewaltsam an der wasserdichten Dichtung. Eine gedehnte wasserdichte Dichtung kann das Schließen des Unterwassergehäuses behindern oder das Eindringen von Wasser verursachen.

(!) Achten Sie beim Anbringen der wasserdichten Dichtung darauf, dass sie gleichmäßig anliegt und nicht verdreht ist.

DEUTSCH

Hinweise zur richtigen Verwendung des Unterwassergehäuses

- Verwenden oder lagern Sie das Unterwassergehäuse nicht bei Temperaturen höher als +40 °C.
- Verwenden Sie das Unterwassergehäuse nicht in Wasser mit einer Temperatur von mehr als +40 °C, da es sonst zu Wassereintritt führen kann.
- Wenn das Unterwassergehäuse in einer sehr großen Höhe geschlossen wird, wie z.B. auf einem hohen Berg oder in einem Flugzeug, lässt es sich möglicherweise nur schwer öffnen, nachdem Sie sich wieder in einer niedrigeren Höhe befinden. Schieben Sie in diesem Fall eine Plastikkarte oder ein ähnliches Objekt, das nicht spitz ist, in die Fuge des Unterwassergehäuses.
- Verwenden Sie weder Verdünnungsmittel noch Leichtbenzin, Alkohol oder andere flüchtige Chemikalien zur Reinigung. Falls Sie solche Chemikalien auf dem Unterwassergehäuse auftragen, kann es zu Beschädigung der Oberfläche bzw. zu Sprüngen unter hohem Druck führen.
- Setzen Sie das Unterwassergehäuse keinen Stößen oder Schlägen aus.
- Werfen Sie das Unterwassergehäuse nicht in das Wasser.
- Falls Sie das Unterwassergehäuse in Meerwasser verwendet haben, waschen Sie das Unterwassergehäuse noch gut verschlossen in einem Eimer mit Frischwasser ab, um das Salz zu entfernen. Trocknen Sie danach die Außenseite des Gehäuses mit einem trockenen, weichen Tuch.
- Dieses Produkt ist für die Verwendung im Wasser als Unterwassergehäuse konstruiert. Belassen Sie niemals die Kamera in diesem Produkt, wenn Sie dieses aufbewahren. Batterieflüssigkeit kann aus der Kamera austreten und ein Feuer verursachen.

■ Zur Vermeidung von Wassereintritt

Falls es zu Wassereintritt während der Verwendung des Unterwassergehäuses kommt, wird die Digitalkamera beschädigt, so dass sie nicht mehr repariert werden kann. Beachten Sie daher vor der Verwendung die folgenden Vorsichtsmaßregeln.

- Die normale Lebensdauer der wasserdichten Dichtung beträgt etwa ein Jahr, hängt aber von den Betriebsbedingungen ab. Wechseln Sie einmal jährlich die wasserdichte Dichtung gegen eine neue aus.
- Alle an der wasserdichten Dichtung haftenden Fremdkörper können einen Wassereintritt verursachen. Wischen Sie sie ab und achten Sie dabei darauf, dass keine Flusen an der wasserdichten Dichtung verbleiben. Falls ein Fremdkörper nicht leicht entfernt werden kann, versuchen Sie ihn mit Wasser abzuspülen.
- Falls die wasserdichte Dichtung Kratzer, Risse, Verfärbungen oder Verformungen aufweist, ersetzen Sie sie durch eine neue.
- Wenn Sie die wasserdichte Dichtung auswechseln, reinigen Sie zuerst die Nut für die wasserdichte Dichtung und kontrollieren Sie, ob keine Sandkörner, Staub, Haare oder andere Fremdkörper darin haften.
- Wenn die wasserdichte Dichtung nicht richtig sitzt, kann Wasser eindringen. Achten Sie beim Einsetzen der wasserdichten Dichtung darauf, dass sie in der Nut liegen bleibt und sich nicht verdreht (S. 17).
- Belassen Sie das Unterwassergehäuse im Sommer niemals in direktem Sonnenlicht, in einem geschlossenen Fahrzeug oder in der Nähe eines Heizgeräts. Legen Sie nicht langfristig externe Kräfte an das Unterwassergehäuse an. Verformungen durch Wärme oder Krafteinwirkung können eine Verschlechterung der Wasserdichtigkeit des Unterwassergehäuses bewirken und es für den Einsatz im Wasser unbrauchbar machen.

- Achten Sie darauf, dass die wasserdichte Dichtung und die damit in Kontakt kommende Fläche nicht durch Zusammenstoßen beider Teile oder durch eingeklemmte Fremdkörper (Sand, Staub oder Haare) beschädigt werden.
- Führen Sie eine Eintauch- und endgültige Prüfung durch, bevor Sie dieses Produkt verwenden.
- Falls Sie während des Fotografierens Anzeichen von Wassereintritt bemerken, nehmen Sie das Produkt sofort aus dem Wasser. Stellen Sie die Ursache fest und ergreifen Sie entsprechende Maßnahmen.

Technische Daten

Für den Gebrauch bestimmte Kamera	Digitalkamera FinePix A400/A500
Druckwiderstand	Bis zu 3 m unter Wasser
Hauptmaterial	Gehäuse: Transparentes Polycarbonat Objektivfenster: Gehärtetes Glas
Abmessungen (B × H × T)	123 mm × 78 mm × 63 mm (einschließlich Überstände)
Gewicht	ca. 145 g (ohne Kamera und Zubehör)

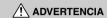
✻ Änderungen der Spezifikationen und Leistungsdaten sind ohne Vorankündigung vorbehalten. FUJIFILM kann für Schäden, die durch Fehler in dieser Bedienungsanleitung entstanden sind, nicht haftbar gemacht werden.

Notas sobre seguridad

Gracias por haber comprado este producto.
Antes de utilizarlo, asegúrese de que lee este “Manual del usuario”, y especialmente estas “Notas sobre seguridad”, así como el “Manual del usuario” de su cámara digital. Después de leer estas notas de seguridad, guárdelas en un lugar seguro, con el fin de poder consultarlas con comodidad posteriormente.

■ Los símbolos que se muestran a continuación se utilizan para indicar la gravedad del daño o el peligro que puede suponer el no tener en cuenta la información indicada por el símbolo, o si el producto se utiliza incorrectamente.

	Este símbolo indica que, si se ignora la información, pueden producirse lesiones graves.
	Este símbolo indica que, si se ignora la información, pueden producirse lesiones personales o daños a materiales.

■ Los símbolos que se reproducen a continuación se utilizan para indicar la naturaleza de las precauciones que deben observarse.

	Los símbolos triangulares indican al usuario una información que requiere su atención (“Importante”).
	Los símbolos circulares cruzados por una barra diagonal indican al usuario que la acción que se indica está prohibida (“Prohibido”).
	Los símbolos en negro con un signo de exclamación indican al usuario que tiene que realizar alguna acción (“Obligatorio”).

⚠ ADVERTENCIA

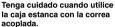
No intente modificar ni desmontar el producto.
Puede hacer que el agua se filtre.

No coloque el producto sobre una superficie inestable.
Si lo hace, el producto puede caerse o volcarse y causar daños o lesiones.

Utilice sólo las pilas que se especifican para su uso con la cámara.
El uso de otra fuente de alimentación puede causar un incendio.

Use la pila sólo según lo especificado.
Cargue las pilas haciendo coincidir las marcas ⊕ y ⊖.

No caliente, modifique ni intente desmontar las pilas.
No someta las pilas a impactos fuertes ni las tire contra el suelo.
No almacene las pilas junto a productos metálicos.
No intente recargar pilas alcalinas.
Utilice sólo el modelo de cargador especificado para cargar las pilas recargables Ni-MH.
Si no sigue cualquiera de las instrucciones anteriores, puede hacer que la pila explote o que se produzcan fugas en el líquido de la pila, y dar lugar a un incendio o a lesiones.

Mantenga las xD-Picture Cards fuera del alcance de los niños pequeños.
Dado el pequeño tamaño de las **xD-Picture Card**s, un niño podría tragárselas de forma accidental. Asegúrese de guardar las **xD-Picture Card**s fuera del alcance de los niños pequeños. Si un niño se tragase una **xD-Picture Card**, visite inmediatamente al médico.

Mantenga fuera del alcance de los niños pequeños.
Este producto puede causar lesiones en manos de un niño.

No utilice la cámara para mirar directamente al sol.
Podría dañar su vista.

Tenga cuidado cuando utilice la caja estanca con la correa acoplada.
Puede hacer que la caja se balancee inesperadamente, causando daños o lesiones.

No deje la caja estanca para la cámara expuesta a la luz directa del sol ni en lugares sometidos a temperaturas extremas.
Si la presión dentro de la caja subiera debido al calor, la tapa podría abrirse violentamente y causar daños o lesiones.

⚠ PRECAUCIÓN

No deje caer el producto ni lo golpee contra objetos duros.
Puede romper el producto y hacer que el agua se filtre dentro.

Cuando limpie la cámara o no tenga intención de utilizarla durante un tiempo prolongado, extraiga las pilas.
Si no lo hiciera, podría producirse una pérdida en la pila u originarse un incendio.

No utilice el flash demasiado cerca de los ojos de una persona.
Puede afectar temporalmente a la vista. Tenga especial cuidado al fotografiar a niños pequeños.

No abra o cierre el producto en lugares con arena o polvo.
Si un grano de arena o una mota de polvo entrara en la junta estanca, puede hacer que el agua se filtre dentro.

No deje el producto en lugares sometidos a temperaturas extremadamente altas o bajas.
Puede originar su rotura.

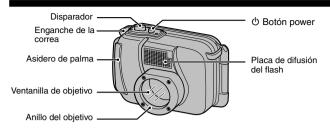
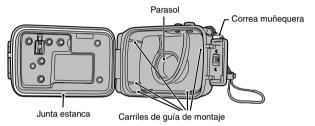
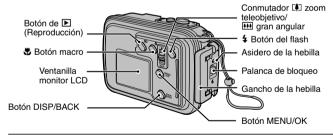
Si la cámara se moja, quite inmediatamente las pilas de la cámara.
Podría provocar un incendio o daños debidos a la ignición o explosión de gas de hidrógeno.

No utilice el producto en profundidades que superen los 3 m bajo el agua.
Puede originar su rotura.

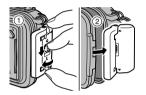
ESPAÑOL

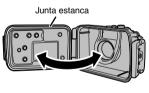
Contenido

Prefacio

- Fuji Photo Film Co., Ltd. no responderá en modo alguno de pérdidas accidentales (como costes fotográficos o pérdida de ingresos procedentes de la fotografía) como resultado de fallos en este producto.

■ Asegúrese de que lee estas indicaciones antes de utilizarlo

- Esta caja estanca está diseñada para su uso bajo el agua, hasta una profundidad de 3 m. Manipule la caja con cuidado.
- Rogamos siga las instrucciones de este manual respecto a la preparación la caja estanca para su uso, cómo hacer una prueba anticipada, cómo realizar el mantenimiento de la caja y cómo guardarla tras su uso. Utilice el producto sólo según se describe en este manual.
- Fuji Photo Film Co., Ltd. no responderá en modo alguno de cualquier daño sufrido por la cámara digital o cualquier pérdida causada por el uso inadecuado de la caja estanca (como, por ejemplo, una partícula extraña adherida a la junta estanca).
- Fuji Photo Film Co., Ltd. no responderá en modo alguno de lesiones personales, muertes o daños materiales producidos durante el uso del producto.

Accesorios incluidos

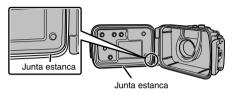
- **Manual del usuario (este manual)**

Nombres de las partes

- Las funciones de operación de la unidad corresponden a las operaciones individuales de la cámara. Consulte las funciones de la unidad en el “Manual del usuario” de su cámara digital.
- Al comprar la unidad, la ventana del monitor LCD viene protegida por una película protectora. Asegúrese de quitarla antes de comenzar a utilizar el producto.

Comprobación previa de la caja

Realice una prueba de inmersión previa con la caja estanca, antes de poner en ella la cámara digital

Antes de instalar la cámara digital en la caja, compruebe que no hay ninguna filtración de agua.

1 Compruebe el exterior de la caja estanca, para asegurarse de que no hay fisuras ni defectos en ella.

2 Abra la caja estanca.

① Mientras desliza hacia abajo la palanca de bloqueo (◖), sujete la parte inferior y superior (la posición de las marcas ▲▼) del asidero de la hebilla y levántelo.
② Desbloquee el gancho de la hebilla para abrir la caja estanca.

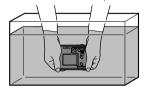
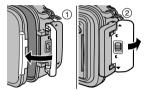
3 Compruebe lo siguiente en el interior de la caja estanca:

- Que no hay rajaduras (especialmente, alrededor de la junta estanca)
- Que la junta estanca está correctamente asentada
- Que la junta estanca no tiene arañazos ni rajaduras, ni una forma extraña, etc.
- Que no hay arena ni partículas extrañas adheridas a la junta estanca

ESPAÑOL

Comprobación previa de la caja

Si se adhiriese alguna partícula extraña en la junta estanca, límpiela utilizando un paño suave y que no suelte fibras, u otro utensilio similar.

(!) Si utiliza un pañuelo de papel para limpiar, tenga cuidado, ya que puede dejar pequeñas fibras.

4 Cierre la caja estanca.

Cierre la caja estanca después de volver a enganchar correctamente el gancho de la hebilla.

(!) Cuando cierre la caja estanca, tenga cuidado para que la hebilla no pille la correa muñequera.
Podría dejar pasar filtraciones de agua.

5 Introduzca la caja estanca vacía en un depósito o una bañera con agua, y compruebe si se producen filtraciones de agua.
Consulte cómo comprobarlo en la p.10.

Para evitar filtraciones de agua

Cualquier partícula extraña adherida a la junta estanca puede causar una filtración de agua. Quite las partículas extrañas. Si no puede quitarlas, sustituya la junta estanca por una nueva (p.17).

Pelo

Fibra

Arena

Cómo colocar la cámara digital dentro de la caja estanca

Antes de comenzar la instalación, verifique los puntos siguientes:

- Para evitar quedarse sin batería mientras hace fotografías subacuáticas, verifique el nivel de las pilas. Si el nivel de pilas restante no es suficiente, sustituya las pilas alcalinas por otras nuevas o inserte las pilas recargables de Ni-MH totalmente cargadas.
- Compruebe cuántas imágenes nuevas pueden guardarse en la **xD-Picture Card**.
- Quite la correa muñequera de la cámara digital. Si utiliza la cámara dentro de la caja estanca sin haber quitado la correa de la cámara, pueden producirse filtraciones en la caja.

1 Apague la cámara.

2 Abra la caja estanca (p. 7) e introduzca la cámara en ella.

Deslice la cámara dentro de la caja estanca, hasta que quede bien asentada.

3 Asegúrese de lo siguiente, antes de cerrar la caja estanca.

- No hay polvo, pelos o cualquier otra partícula extraña en la junta estanca ni en la superficie del borde de la caja estanca que encaja con la junta estanca.
- La cámara está correctamente asentada y alineada en la caja estanca.

4 Cuando todo esté correcto, cierre la caja estanca (p.8).

→ Compruebe que el ⏻ botón power de la cámara y el resto de mandos se pueden manipular correctamente, mediante los controles de la carcasa.

ESPAÑOL

Cómo realizar una prueba final

Realice una prueba de inmersión final con la caja estanca, después de montar la cámara digital. Para comprobar si hay filtraciones de agua, observe cualquier goteo de agua que entre, mientras introduce la caja en un depósito o una bañera llenos con agua. Realice la prueba de forma que pueda sacar la caja inmediatamente del agua (para proteger la cámara que está dentro), si fuera necesario.

1 Introdúzcala en el agua durante 30 segundos.

- Si ve un rastro continuo de burbujas de aire que salen de la junta de la caja estanca mientras está introducida en el agua, eso es señal de una filtración de agua.
- Si todo está correcto, manipule los botones y haga algunas fotografías de prueba con la caja debajo del agua.

2 Tras sacar lentamente la caja estanca del agua, compruebe con atención lo siguiente.

- Si hay gotas de agua cerca de la juntura de la caja estanca.
- Si hay algún charco de agua dentro de la caja estanca.

Si detecta una filtración de agua...

① Saque inmediatamente la caja estanca del agua y seque su parte exterior.
② Extraiga la cámara digital de la caja estanca. Si ve gotas de agua en la cámara digital, séquelas inmediatamente.
③ Asegúrese de que no hay rajaduras en el cuerpo de la caja estanca. Compruebe que en la junta estanca no hay partículas extrañas pegadas, desperfectos, rajaduras o formas extrañas.
④ Cuando todo esté bien, vuelva a comenzar el procedimiento descrito en la p.7.

> (!) Si encuentra que algo va mal con la caja estanca, deje inmediatamente de utilizarla y póngase en contacto con su distribuidor FUJIFILM.

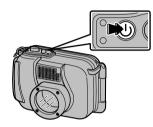
> (!) Si entró agua en el cuerpo de la cámara, no la vuelva a utilizar y póngase en contacto con su distribuidor FUJIFILM. Si utiliza la cámara en un estado defectuoso puede causar un incendio o una descarga eléctrica. No la utilice en este estado, bajo ninguna circunstancia.

Cualquier clase de partícula extraña pegada a la junta estanca puede causar una filtración de agua. Quite las partículas extrañas después de comprobar cómo se hace, en la p.16.

Pelo

Fibra

Arena

ESPAÑOL

Cómo hacer fotos

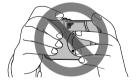
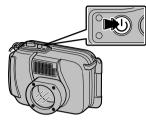
- Con la caja estanca, puede hacer fotografías hasta 3 m debajo del agua.
- Las funciones de operación de la unidad corresponden a las operaciones individuales de la cámara. Si desea ver instrucciones de operación o funciones de la cámara, consulte el manual del usuario que viene con su cámara.

1 Conecte la cámara.

Pulse el ⏻ botón power.

(!) Haga una fotografía de prueba, antes de utilizar bajo el agua la cámara protegida.

2 Sostenga la caja estanca firmemente con ambas manos.

(!) Sostenga la cámara, de forma que los dedos o la correa no cubran el objetivo ni el flash (placa de difusión). Si el objetivo o flash estuviesen tapados, el sujeto podría quedar desenfocado o la luminosidad (exposición) de la toma podría resultar incorrecta.

3 Tome las fotografías.

① Pulse hacia abajo el botón del disparador, hasta la mitad del recorrido, para enfocar.

(!) No es posible pulsar a medias el botón del disparador cuando se graba vídeo.

② Pulse hacia abajo el botón del disparador, hasta el fondo, para tomar la fotografía.

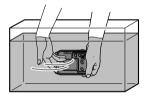
ESPAÑOL

Después de la toma fotográfica (almacenamiento)

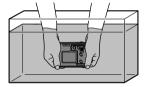
1 Apague la cámara.

Pulse el ⏻ botón power para desconectar la cámara.

(!) Asegúrese de que la cámara está desconectada.

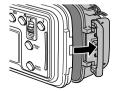
2 Cuando termine de hacer fotografías, inmediatamente llene un cubo u otro contenedor con agua pura, para eliminar la sal dejada por el agua del mar.

Enjuague bien el exterior de la caja estanca, sacudiendo el agua con la mano.

(!) Si quedara algo de sal en la caja, podría causar corrosión, mal funcionamiento local y otros problemas.

3 Quite cuidadosamente las gotas de agua de la caja estanca.

Especialmente, quite con cuidado las gotas que haya en la junta de la caja estanca.

(!) Utilice un trapo suave y que no suelte fibras, o un utensilio parecido.

(!) Retire las gotas de agua que queden bajo el botón del disparador, la hebilla y otras piezas.

4 Abra la caja estanca con cuidado y saque la cámara.

- Antes de abrir la caja estanca, asegúrese de que sus manos y pelo están secos y que no goteará agua sobre la cámara, ni dentro de la caja estanca.
- Abra la caja estanca con la lente mirando hacia abajo para evitar que la cámara se caiga.
- Si sus manos están mojadas, asegúrese de no tocar la cámara ni la pila.
- No abra la caja estanca en lugares en los que el interior pueda llenarse de arena o mojarse.

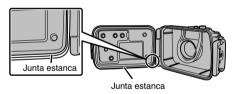
5 Tras verificar que no hay gotas ni partículas extrañas en la junta estanca, cierre la caja estanca y ciérrela herméticamente. **Lávela cuidadosamente con agua pura** una vez más.

Intente eliminar cualquier residuo de sal, moviendo ligeramente los diversos botones, debajo del agua. Recomendamos que sumerja la caja estanca en agua limpia durante, aproximadamente, 1 hora.

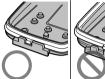
- Si la caja se guarda con restos de agua salada, los cristales de sal obturarán el movimiento de la hebilla y de otras partes. También puede producirse corrosión.

6 Tras limpiar las gotas de la caja estanca, abra un poco la caja estanca y deje que se seque en un lugar ventilado y alejado de la luz solar directa. Tras secar la caja, guárdela donde no quede directamente expuesta a la luz del sol.

- No utilice un secador de pelo, aire caliente o luz directa del sol para secar la caja estanca.

Mantenimiento

Mantenimiento después del uso

Haga esto siempre inmediatamente después de utilizar la caja estanca. Compruebe que la junta estanca no tiene muescas ni defectos causados por partículas extrañas, rajaduras ni otros daños.

Limpie cualquier partícula extraña adherida a la junta estanca utilizando un paño suave y que no suelte fibras, u otro utensilio similar.

(!) Si utiliza un pañuelo de papel para limpiar, tenga cuidado, ya que puede dejar pequeñas fibras.

Si no puede eliminar las partículas extrañas…

Si no puede eliminar las partículas extrañas:

① Retire la junta estanca.
② Limpie con cuidado las partículas extrañas de la junta estanca con agua.
③ Seque las gotas de agua con cuidado con un paño suave y que no suelte fibras, o con cualquier paño similar.
④ Cuando la junta estanca esté seca, vuelva a instalarla en la caja estanca.

(!) Cuando instale la junta estanca, haga coincidir la proyección de la junta estanca con la muesca correspondiente de la caja estanca.

(!) Instale la junta estanca y presione en todo el perímetro para ajustarla correctamente.

(!) Extraiga la junta estanca con los dedos y con cuidado de no dañarla. No utilice objetos punzantes, metálicos, etc.

(!) No tire de la junta estanca si observa que no resulta fácil extraerla: si deforma la junta estanca, probablemente no podrá cerrar la caja estanca o provocará filtraciones de agua.

(!) Al instalar la junta estanca, verifique que está uniformemente ajustada y que no tiene pliegues.

ESPAÑOL

Notas acerca de cómo utilizar correctamente la caja estanca

- No utilice ni guarde la caja estanca a temperaturas que superen los +40 °C.
- No la utilice en agua a temperatura superior a +40 °C, ya que podrían producirse filtraciones.
- Si la caja estanca se cierra a gran altitud, por ejemplo, en montañas elevadas o en un avión, es posible que tenga dificultades para abrirla cuando regrese a altitudes más bajas. Si esto ocurre, inserte una tarjeta de plástico u objeto similar que no sea puntiagudo en la junta de la caja estanca.
- No utilice disolventes, benzina, alcohol ni otros productos químicos volátiles para la limpieza. Si aplica esos productos químicos a la caja estanca, puede ocasionar daños en su superficie y se agrietará cuando esté bajo altas presiones.
- No golpee la caja estanca ni la someta a impactos.
- No arroje la caja estanca al agua.
- Cuando utilice la caja estanca en agua de mar, lávela después, todavía perfectamente cerrada, en un cubo de agua pura para eliminar por completo la sal. A continuación, seque el exterior de la caja, utilizando un paño seco y suave.
- Este producto está diseñado para su uso bajo el agua, como caja estanca. No la deje ni guarde con la cámara todavía dentro: la pila puede tener fugas o incluso causar un incendio.

■ Para evitar filtraciones de agua

Si esta caja tiene filtraciones durante su uso y la cámara digital que va dentro se moja, la cámara no se puede reparar. Tome las siguientes precauciones antes de usarla.

- La vida estándar de la junta estanca es de alrededor de un año, aunque depende de las condiciones de funcionamiento. Sustituya la junta estanca por una nueva, una vez al año.
- Cualquier partícula extraña adherida a la junta estanca puede causar una filtración de agua. Elimínelas con un paño, asegurándose de que no quedan restos de fibras pegados a la junta estanca. Si una partícula extraña no se puede quitar fácilmente, pruebe a quitarla con agua.
- Si la junta estanca se araña, agrieta, decolora o deforma, sustitúyala por otra.
- Al sustituir la junta estanca, primero limpie la ranura de la junta estanca y compruebe que está libre de granos de arena, polvo, pelos y otras partículas extrañas.
- Si la junta estanca no está correctamente asentada, puede producirse una filtración de agua. Cuando monte la junta estanca, asegúrese de que queda fija en la ranura y que no se retuerce (p.17).
- No deje la caja estanca expuesta a la luz directa del sol en verano, ni en un vehículo cerrado, ni cerca de un aparato calefactor. No aplique una fuerza externa de larga duración a la caja estanca. La deformación causada por el calor o la fuerza puede dar lugar a la pérdida de impermeabilidad, inutilizándola para ser usada bajo el agua.

- Tenga cuidado de no dañar la junta estanca ni la superficie en contacto con ella, apretándolas en exceso una contra otra, o dejando que se metan partículas extrañas entre ellas (arena, polvo o pelos).
- Lleve a cabo la prueba de inmersión y la prueba final antes de utilizar el producto.
- Si advierte señales de filtración de agua mientras toma fotografías, saque el producto inmediatamente del agua. Busque la causa y haga lo que corresponda.

Especificaciones

Cámara con la que debe ser utilizada	Cámara digital FinePix A400/A500
Resistencia a la presión	Hasta 3 m de profundidad bajo el agua
Materiales principales	Cuerpo de la caja: Policarbonato transparente Ventanilla de objetivo: Vidrio templado
Dimensiones (ancho × altura × profundidad)	123 mm × 78 mm × 63 mm (incluidas las partes salientes)
Peso	Aprox. 145 g (no incluye la cámara y los accesorios)

✻ Estas especificaciones están sujetas a cambio sin previo aviso. FUJIFILM no se hará responsable de ningún daño resultante de posibles errores en este Manual del usuario.

ESPAÑOL

製品保証規定

1. 保証期間内に正常な使用状態（使用説明書、注意書に従った使用状態）で故障した場合には、弊社サービスステーションまたはお買上げ店にて無料修理いたします。
2. 無料修理を受ける場合は、商品と本書をご提示の上、弊社サービスステーションまたはお買上げ店に依頼してください。なお、お届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様でご負担願います。
3. ご贈答品、ご転居後の修理については、弊社サービスステーションにご相談ください。
4. 保証期間内でも、次の場合には有料修理になります。
   (1) 業務用の長時間使用、車両、船舶などへ搭載して使用された場合の故障、損傷、および消耗部分を交換した場合。
   (2) 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
   (3) 保証書にお名前、お買上げ日、お買上げ店名の記載がない場合あるいは、これらの字句を書き換えられた場合。
   (4) 使用上の誤りおよび弊社サービスステーション以外での修理、調整による故障および損傷。
   (5) お買上げ後の、落下、衝撃、砂、泥かぶり、冠水、浸水などによる故障および損傷。
   (6) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
   (7) 故障の原因が本製品以外（電源､他の機器など）にあって､修理した場合。
   (8) 上記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。
5. この保証書は、日本国内でのみ有効です。
6. この保証書は再発行いたしませんので大切に保存してください。

※ この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※ 修理、アフターサービスに関する事項については、本書の「アフターサービスについて」の項をご覧ください。

FUJIFILM

保証書

型名		WP-FXA500
保証期間		本体　　　　　　　　　　　　　　　1年
お客様	ご住所	□□□ −□□□□
	お名前	様
	電話	
お買上げ店	住所・店名	印
	電話	
お買上げ日		

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。修理ご依頼の際には、商品と本書を弊社サービスステーションもしくはお買上げ店にご持参ください。

- **使いかたのお問い合わせ：**
  FinePixサポートセンター　TEL. 0570-00-1060
  月〜金：9:00 〜17:40、土：10:00 〜17:00、日・祝日・年末年始を除く
- **修理のお問い合わせ：**
  東京サービスステーション　TEL. 03-3436-1315
  大阪サービスステーション　TEL. 06-6260-0915
  月〜金：9:00 〜17:40　土：10:00 〜17:00、日・祝日・年末年始を除く

※ 全国のサービスステーションのご案内は、本書の「アフターサービスについて」をご覧ください。

This warranty is valid only in JAPAN.

富士写真フイルム株式会社
〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30

FUJI PHOTO FILM CO., LTD
26-30, Nishiazabu 2-chome, Minato-ku, Tokyo 106-8620, Japan

Printed in China　FPT/Y-608104-PY